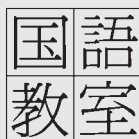


特集：新課程入試に向けた授業の工夫



April 2024
大修館書店 121

〈座談会〉新課程国語の入試を展望する

——令和6年度大学入学共通テストを受けて——

石鍋雄大／石原徳子／下西美穂／船口明／
山口正澄／吉田敦 …………… 2

早わかり 新課程国語の入試 川崎武司 …………… 8

入試 比べ読み

「月」を軸にした比べ読みの実践 藤巻壮史 …………… 10

比べ読みをとおして気づきをつなげ、筆者の感動に迫る 井上麻美子 …………… 14

入試 非連続型テキスト

統計資料をもとに意見を書く 大島かや子 …………… 18

「絵を見る技術」をとおして絵画を言語化する 池上正子 …………… 22

入試 統計資料の読み取り

「現代の国語」で統計資料を「読む」 赤尾篤史 …………… 25

入試 面接・総合型選抜

自己推薦書を題材とした「書くこと」の授業 戸塚匠 …………… 29

生徒同士の学び合いを軸とした面接の指導 高橋慶熙 …………… 32

入試 現代文と古典の融合

作品の時代背景を知り、小説の解釈を深めよう 千々松芙美子 …………… 35

新入試で問われる力を「めじるし」に、教材をつなぐ「言語文化」の授業 北村卓也 …………… 38

古典をプロデュースしてみんとするなり 安岡充令 …………… 42

【新刊紹介】高校国語〈比べ読みの力〉を育む実践アイデア（幸田国広 編著） …………… 48

令和7年度用 大修館書店 国語教科書のご案内 ……中面カラーページ

連載

県立いまだき高校 国語科だより … 傾向は知りたいが牛後となるなかれ …… いのうえさきこ 46

いま、高校生に読んでほしい本… 夏川草介『スピノザの診察室』…………… 内田剛 49

詩の教室へようこそ⑧…………… 自分だけの声と言葉を届けるために …………… 和合亮一 50

国語教師のための
古典文法指導講座⑬…………… 助動詞一覧表を眺める …………… 大倉浩 54
——紫式部にファンレターを書こう⑩

コトバのひきだし⑬…………… 「そうだ」の「だ」は要るそう……だ？ …………… 関根健一 56

青山あり! 中国祠墓紀行⑩ … 陳勝基（河南省永城市） …………… 平井徹 58

コーナー

えつらん室…………… 高校国語〈比べ読みの力〉を育む実践アイデア／方言はなぜ存在するのか …………… 60
「AI＝知」への逆襲／シェイクスピア、それが問題だ！

国語のNews&Topics …………… 62

〈座談会〉新課程国語の入試を展望する

——令和6年度大学入学共通テストを受けて——

令和7年度入試から、新課程に則した大学入学共通テストが行われます。国語の大学入試はどのように変わるのか、これからどのような授業を行っていけばよいのか。今年一月に行われた令和6年度大学入学共通テストの状況もふまえて、高校現場と予備校の先生方6名に語り合っていました。

石鍋雄大 石原徳子 下西美穂 船口明 山口正澄 吉田敦 司会・編集部

■令和6年度大学入学共通テストを受けて

まずは、今年の大学入学共通テストについて、どんな印象をもたれましたか。

下西 現任校では多くの生徒が「簡単だった」という手応えで、あまり差がつかなかったようです。

船口 一見拍子抜けするくらいにセンター試験に戻ったな、と感じると思います。来年から始まる新課程の共通テストでは、実用的な文章を問う第3問が増えて、時間も90分になります。それもふまえてどのような問題になるのかと注目していましたが、扱う内容が増えることを

見越して、今年は全体的に負担を軽減しようとしたのかな、という印象です。

石原 古典では、一年生で習うような知識問題が多く出題されていました。「古典分野は基礎をしっかりと勉強していれば大丈夫だ」という手応えが得られたのではないかと思います。細かい知識を問う問題も少なく、「読んでいるかどうか」よりも、「読んだ上で、自分はどう考えるか」が問われているように感じました。また新しい傾向の設問としては、特に第1問の評論で、生徒が書いた文章を推敲する設問が出題されたのは新鮮でした。

新課程の「書くこと」に配慮した設問と

もとえられますが、課題文とは異なる意見を生徒が書いた、という設定になっているところがおもしろいですね。

石鍋 推敲の設問は確かに新鮮でしたね。授業でもこうした「思考力・判断力・表現力」を伸ばす授業をしていかなければならないな、という思いを新たにしました。また評論文（渡辺裕「サウンドとメディアの文化資源学」）は二項対立で論じるタイプのものでしたが、どちらかに意見が偏るような単純なものではなく、二項を超えるような見方が示されている

のも興味深いところでした。全体的には、「新指導要領の内容をきちんと学んでいれば大丈夫ですよ」というメッセージだと受け止めました。

船口 第1問の評論で出題された渡辺裕は、センター試験で過去にも出題されていますし、今回と同趣旨の私大の問題もあります。そういう意味では、やはりこれまでの過去問をしつかりと解いて対策しておくことも重要だといえそうです。

山口 全体的には易化という評価なのでしょうが、一方で、受験生の視点で見ると、80分で解ききるには、やはり分量的に厳しいと感じました。作問者の視点では、問題作成方針で多くの制約がある中で、その条件に従って工夫して作られており、出題上の苦労を感じました。

吉田 評論で出題された生徒の文章例や、古文で出題された本文についての解説文は、おそらく作問者が独自に作ったものです。やはり関連する内容の読み比べの対象となる文章を、既存の文章から持ってくるのは、相当難しいのでしょうか。船口 予備校としては「全体的に易化」といった評価をしてはいるのですが、答

えは合っているも本当に読めている生徒がどれだけの人は微妙、ということも感じます（本年の第1問問4など）。例えば、本文に出てきた言葉をそのまま選択肢で探すといった機械的な読みをしてしまふ生徒もいますが、文章を読み取って自分の中で解答を作成できている生徒のほうが、迷いなく正解を選べたのではないかと思います。傍線部の根拠を問う設問、特に本文中の言葉を別の表現で言い換えて問う設問が近年増えてきていますが、機械的ではなく、自分の頭でしっかりと本文が読めているかを見る傾向になっているのではないのでしょうか。

石原 本当にそう思います。本文で出てきた言葉を機械的に探す、ただ「言葉を結び」ような読みをしてしまふ生徒が多いです。述べられていることのキーワードを抜き出すことはできるんですけど、じゃあそれって具体的にどういうこと？と聞いていくと、意外と理解できていないことが多いです。

船口 同じ単語同士を結ぶような作業は、AIが得意ですよ。そういう、傍線部付近と選択肢を結びAI的な読み方

ではなく、しっかりと内容を理解して読みましよう、という作問者の意図を感じます。大学に入ってから読む文章には、そもそも傍線なんか引いてありませんからね（笑）。

石原 私も授業をしていてその点が不安で、本当に生徒にとつての深い学びになっているのかな？ ということをよく考えます。今回の共通テストのような問題をとおして、生徒が自分で考える習慣をつけられるようになるという、と。

山口 先ほど話題になった評論の問題では、生徒が推敲する際に、自分の書いた表現をより具体的にするにはどうすればよいか、という設問も出題されています。そうした具体と抽象を行き来すること、生徒は苦手ななかもありません。

その根底には、基本的な語彙力不足もあるのではないのでしょうか。語彙力があれば、言葉を紡いでいった先の結びつきも理解できるのではないかと。センター試験から共通テストになっても、言葉の意味を知ることの重要性は変わらないですね。

船口 その意味では、第2問の小説（牧



吉田敦
(よしだ あつし)
代々木ゼミナール教育総合研究所
所長。

像が少ないというか。それで読解だけでなく、人間関係も苦手になっている生徒もいるように思いますね。

■A-の進展と記述式問題
——共通テストからは離れますが、記述式の設問についてはいかがでしょうか。

吉田 AIによる記述問題の自動採点だと、評論はとても精度が高くなってきましたが、小説はまだうまくできないという実態があります。本文に書かれていない部分も補って読む必要があるからだろうと思いますが、そうした書かれていないことを読み取る力を生徒につけさせるにはどうするか、考える必要があります。

船口 正直なところ、論理的な文章に関しては、AIの採点技術は驚くべきレベルで進歩していますね。

山口 生成AIによる文章もなかなかのレベルになってきていますよね。志望理由書の下書きをAIにさせる生徒も出てくるんだろうな、と（笑）。そういう面も含めて、生徒を取り巻く状況が変わってきていますね。

石原 記述式の採点は大きな論点ですね。記述答案の採点は基準を揃えることが難しく、受験生の多い入試では、共通テストのような選択式がふさわしいとも言われます。でも、特に定期テストでは、生徒が一生懸命に書いてきたものを読んでも評価してあげたいな、という思いが強いんです。

船口 言語自体が抽象的なもので、記述式の採点基準がある程度ぶれるのは当然だと思います。特に定期テストなどの小規模なものではほとんど書かせて、採点結果に疑問をもつ生徒が出たなら、先生と話し合いながらその都度解決していけばいいのではないのでしょうか。

石原 予備校の先生にそう言っていた



石原徳子
(いしはら のりこ)
横浜創英中学・高等学校教諭。大
修館書店国語教科書編集委員。

下西 実際に書かせることで初めて気がつくこともありますよね。こんなところでもつまづいてたのか、ということも、選択式だけだと全然わからないです。現任校では国公立を目指す生徒が多いので、記述問題の対策ではマンツーマンでの指導が欠かせません。一年生から授業の中で記述の対策をしていますけど、最後の最後はやはり個別に対応せざるを得ないという状況です。特に小論文では国語だけに留まらない幅広いトピックが問われることもあって、私は「書くこと」の指導についてまだまだ模索中という状況です。



山口正澄
(やまぐち まさずみ)
東京都立小台橋高等学校教諭。大
修館書店国語教科書編集委員。

田真有子「棧橋」で語句の意味を問う設問が復活したのはよかったです。語句の問題は過去問で問われたものが重複して出題されることも多いので、しっかりと過去問を解いておくことが大事です。

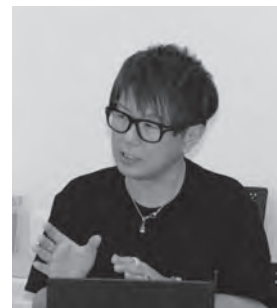
■小説を読むのが苦手な生徒たち？
山口 新課程の共通テストについては、出題範囲の問題もあります。前提としては必修科目である「現代の国語」「言語文化」からの出題ということにはなるのですが、特に古典や文学的文章については、「言語文化」だけではカバーしきれない部分も大きいのではと思います。現代文の論理的な文章についても同様ですね。実質は「論理国語」「文学国語」

「古典探究」で学ばべき内容も出さざるを得ないのでは、というのが実感です。

石鍋 特に理系の生徒は「文学国語」などを採らない場合も多いので、厳しい面があるのではないかと思います。必修科目の学習については、なかなか「国語総合」時代のようにはいかず、変えていかなければならない部分もありますね。

船口 小説でいうと、最近の生徒は塊としてのストーリーを受容する経験が本当に少なくなってきたいるなと感じますね。一時間のテレビドラマは言うまでもなく、彼らの大好きなYouTubeやTikTokでも、10分を超えればもう長く感じてしまう。小説を読むことで、本来は他人の人生を追体験することができるわけですが、自分の関心の幅から外れるものは「興味ない」で済ませてしまう生徒も多いようです。

石原 本当にそうだと感じます。ちょうど今一年生の授業で「羅生門」をやっているんですけど、最近では下人の「盗人になる」という決断を理解できなくて「残念な結末」「もつと正義を貫いたほうがよい」と受け取る生徒も多いです。今回



船口明
(ふなぐち あきら)
代々木ゼミナール国語講師。教育
総合研究所主幹研究員。

の第2問の小説に出てくる風来坊のおばさんも、「寅さん」のような人物というか、現代だと生きづらいかもしれないようなキャラクターですよ。こういう自分とは異質な人物の考えや行動について、納得はできなくてもいいんですけど、「こういうことか」と理解することが大事なはず。そこが苦手な生徒が多くなったという印象です。

船口 他者やさまざまな人物像に出会うためのモデルが少ないのかもしれないですね。ネットの世界では自分の関心のあることを深掘りすることはできるので、ますます自分の狭い興味の中だけで済ませてしまう生徒もいるのではないのでしょうか。自分の中で重ね合わせる人物



石鍋雄大
(いしなべ ゆうだい)
東京都立大泉高等学校附属中学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。

■多様化する入試に対応するには
2次試験や総合型選抜などへの対応についてはいかがでしょうか。

下西 小論文しか出題しない学校もあれば、従来どおりの細かい文法の知識を問う学校もあって、すべてに対応できるように授業で網羅するのは難しいですね。

石鍋 読み比べなどでも、生徒の興味・関心に合わせて、いろいろなテーマを組み込んでみると、単元が膨大になって、時間がかかりすぎる面があります。

山口 総合型選抜の小論文、面接やプレゼンなどについては、国語科だけではなく、他教科との連携を横断的に行っていくことも重要だと思います。また、来年

度の共通テストに追加される第3問のグラフや図表の読み取りなどについても、理系科目はもちろん、今年の「現代社会」でも出題されていますね。当然、「現代の国語」や「論理国語」で学ぶべき部分もありますが、すべてを国語科で扱おうとするのではなく、各科目の専門性も考慮して、持続可能な指導をしていくことが重要ではないでしょうか。

吉田 グラフの読み取りについては、代々木ゼミナールで、「棒グラフや折れ線グラフを読んで、その内容を七〇字程度で表現してみる」という活動を提案した人がいました。初めは「右上がり」や「左上がり」といったことしか書けないのですが、慣れてくるとさまざまなことが表現できるようになっていくようです。一つの方策として、そのような活動も考えられます。

石原 生徒によってさまざまな着眼点がありそうなので、解答を比べさせるなどすると、とてもおもしろそうですね。

下西 さまざまな視点ということでは、関連する情報を自分で見つけてきて意見を書く、といった学習にも発展できそ



下西美穂
(しもにし みほ)
東京都立戸山高等学校教諭。大修館書店国語教科書編集委員。

うですね。現在は、一つの文章を読んでも、その内容をわかりました、で通用する状況ではなくなってきたのかなと思います。やはり関連する文章・資料を読み比べさせて、そこからどのようなことがわかるか、ということまで考えさせないといけないですね。生徒たちは意外とそういう活動は楽しんでやるんですが、関連する文章を探してくる教員側の負担はすごく大きいです(笑)。

山口 それも、国語科の中で連携できるといいかもしれません。一人でできることには限界があるので、授業の中で使う資料やスライドなどは共有にして、うまく協力し合えるようにのではないのでしょうか。

■これからの国語に向けて

最後に、これからの国語に向けて、先生方の思いや展望をお聞かせください。

石原 私たち教員自身が、「探究者」でありたいなと思います。今回の共通テストでは、古文の「桂」という言葉に注目して書いた解説文の問題がとてもおもしろいと感じたのですが、こういう読み比べというか、探究的な問いを大事にしたいです。ある文章について、A先生は別の関連する文章を持ってきて、私はまた別の文章を用意してというように、お互いに刺激を与え合いながら発展的・探究的な学びを楽しめるとよいな、と。正直なところ、国語の文章について、受験生は「入試があるから読む」というのがほとんどだと思うのですが、本来あるべき姿は「読みたいから読む」「考えたいから考える」だと思います。実際には時間の制約などもあるので難しいんですけど、授業者が探究者であることで、そうした学びを深め合っていけると理想だな、と考えています。

下西 先ほどのグラフや読み比べのお話でも感じたんですが、教員側も、新し

いことにチャレンジできるチャンスだ、と思っています。関連するグラフや文章を見つけてきたりするのはすごく大変です。でも、やはり楽しいんですね。「これ使えないかな?」と、雑談するような状態で、教員も生徒と一緒に悩みながら楽しむ、くらいのつもりでいいんじゃないかと思っています。

船口 その楽しんでいる雰囲気が生徒に伝われば、「国語の先生になりたい」と思う生徒も増えますよ、きっと。

石鍋 「生徒と一緒に作る」という感覚はすごくわかります。さまざまなルールや制約から、ときどきははみ出てもいいんじゃないでしょうか。今日の授業でもすぐくはみ出ちゃったんですけど(笑)。ある評論文で、初出の語にルビが振ってあって、二回目以降からはルビがないのに、最後のほうでまた同じ語にルビが振られていたんです。それに生徒が気づいて、「なぜだ?」って私も生徒と一緒に、一時間ほど考えました。そのときの生徒の様子がすごく自発的で楽しそうだったのが印象的。やはり小論文のための小論文学習や話し合いのための話し合い学

習というか、表面的で受け身な学習はできるだけさせたくないという思いがあります。通過点としての小論文などがあって、卒業時にこういう力がついてほしいな、という授業が作れたら、本当に楽しいものになるのではないのでしょうか。

山口 「関連する文章や学習材を新たに発掘していく」のは大変さとともに、楽しさも生まれると思います。また、先ほども申し上げたように、国語科だけにこだわらないということも考えられるのではないのでしょうか。例えば、「現代の国語」でも「推論」を扱いますが、以前には平成29年度試行調査の「現代社会」で推論について出題されています。国語科だけでなく他教科でも同じ力が求められているんだ、ということを知ると、教科間で有機的につながり合えるのではと思います。教員同士も楽しみながら、うまく協同して、チームで動いていけるといいのではないかと考えています。

——ありがとうございます。

(二〇二四年一月二〇日)

早わかり 新課程国語の入試

かわさきけし 川崎武司 代々木ゼミナール 教育情報センター

「主体的・対話的で深い学び」の実現を掲げた高等学校の学習指導要領が、二〇二三年度から実施されました。この学習指導要領に対応した二〇二五年度（令和七年度）入試がいよいよ来年に迫っています。ここでは、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）を中心に、新課程で行われる国語の入試の概要とポイントを紹介します。

■大学入試における国語の出題科目

学習指導要領にて、国語は共通必修修科目となる「現代の国語」と「言語文化」に加え、選択の「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」、「古典探究」の計6科目で構成されています。その中で共通テストは必修科目の2科目が出題範囲となっていますが、国公立大学の2次試験や私立大学の個別試験において出題範囲は様々です。

主要国立・私立大学の公表内容を見ると、東京大学では全6科目、大阪・明治・青山学院・中央・法政大学では共通テスト同様に「現代の国語」と「言語文化」（青山学院大学文学部は古典探究も含む3科目）の2科目が、東京大阪大学を除く旧帝大では「古典探究」を除く5科目、早稲田・上智・立教大学では「国語表現」を除く5科目が出題範囲

囲となります。出題範囲については未発表の大学も多数ありますので、引き続き公表内容を注視する必要があります。

大学 (一部抜粋)	出題範囲 (科目)					
	現代の国語	言語文化	論理国語	国語表現	文学国語	古典探究
東京	○	○	○	○	○	○
北海道、東北、名古屋、京都、九州	○	○	○	○	○	
上智、立教、早稲田	○	○	○	○		○
学習院	○	○	○			○
青山学院 (文)	○	○				○
東京理科	○	○	○			
大阪、青山学院 (文以外)、中央、法政、明治	○	○				

【表】各大学の出題範囲の例

■共通テスト国語の変更点

二〇二五年度の共通テストから言語活動の場面を主な題材とする現代文の大問が、

近代以降の文章として第3問に出題されます。大問の増加に伴い、試験時間が10分延長され、配点は追加された大問が20点、既存の大問は各50点が45点ずつに変わります。

二〇二三年二月に大学入試センターから公表された第3問の「試作問題2題（第A問、第B問）」で目を引くのは、文章や図、グラフ、生徒作成のレポートなどの多様なテキストを参照して解答する問題であることです。

これまでの共通テストでも、複数の資料を参照したうえで答えを導き出す問題が多く出題されてきました。ただ、題材として実用的な文章（法令の文章や議事録、新聞記事など）からの出題はありませんでした。二〇二五年度の共通テスト第3問において、どのような題材から出題されるかは不透明ですが、現段階での手がかりは試作問題にあります。先生方のみならず生徒に解かせてみるのもよいでしょう。

* 大学入試センターのウェブサイト参照

■センター試験から共通テストへ

二〇二一年度から始まった共通テストでは高校での基礎的な学習内容が身について

いるかどうかに加え、知識の理解の質を問うことや、「思考力・判断力・表現力」が求められる出題を重視しています。複数テキストによる読み取りを行うこともあり、問題分量が増加したことも特徴です。

共通テスト初年度には二〇一七・二〇一八年度実施の試行調査（プレテスト）を意識した設問が見られましたが、従来のセンター試験を踏襲した問題も少なくありませんでした。二〇二三年度には複数の資料を読み込んで関連付けて解く形式の問題分量が多くなり、現在ではこの形式が定着しています。

二〇二四年一月一日実施の共通テストでは、大学入試センターが示す出題意図が明確に表れ、オーソドックスな問題が多く出題された印象です。共通テストならではの問題形式が定着してきたと言ってもよいでしょう。

第1問（論理的な文章）は一つの本文と生徒作成の文章が出題され、漢字問題は三年ぶりに漢字の意味を問う問題がなくなり傍線部に相当するものを選択する従来の形式に戻りました。第2問（文学的な文章）は、語句の意味や文章表現について問う設

問が3年ぶりに出題されました。第3問（古文）は、一つの本文に対し設問の中で関連する文章を提示するという形式、全体の設問構成は二〇二三年度と同様でした。第4問（漢文）は、二〇二二年度と同様に漢詩が含まれており、設問数・解答数は減少したものの、全体の分量は二〇二三年度と同程度でした。新課程前最後の実施であったことや、過去問の蓄積もあるため、受験生の対策も進んだことで取りくみやすい問題であったと思われます。この結果、センター試験時を含め前年比の平均点が五年ぶりに上昇しています。

■今後の入試で必要となる力とは

新課程入試になったからといって、文章の構成・展開を把握する問題や文章の趣旨を読み取る問題、具体例を示す問題など、従来のセンター試験・共通テストで出題されている形式がなくなるわけではありません。そのため、目新しさに惑わされずに、まずはこれまで通り文章読解の基礎・基本を身につけさせることが肝要です。図やグラフ、その他の実用的なテキストを用いた

問題については、教科書の内容をしっかり学び、授業の中に言語活動を取り入れることが有効ではないでしょうか。学習指導要領の解説には「生徒の生涯にわたる社会生活全般を視野に入れた指導が欠かせない」とあります。生徒を取り巻く社会と自身との関連を捉えられるようにするとともに、日頃から様々な文章・統計資料に触れる機会を設けることがこれまでに必要と考えます。

これまでの共通テストを分析すると「読解力」の養成が重要だと考えられます。この力は予測困難な変化の速い社会に出ていく生徒たちに必須の資質・能力であるとともに、表現力やコミュニケーション能力などの基盤にもなります。

社会状況の変化に伴い、指導する側も価値観を日々更新する必要があります。大学入試を見据えた指導が避けられない状況にあると推察しますが、そこで養った力は生涯にわたる社会生活で欠かせないものとなります。先生方の指導観のもとで学んだ生徒が大学入試で報われ、より良い未来を切り拓くことを切に願います。

「月」を軸にした比べ読みの実践

藤巻壮史
ふじまき たけし

長野県軽井沢高等学校

■はじめに

昨年度から新課程が始まり、国語では「現代の国語」「言語文化」という新しい科目が始まった。そして、今年度から「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」と、さらに新しい科目が始まり、私自身授業準備にてんやわんやしている。大学入学共通テストにおいても、複数の作品や文種を読み比べ、思考力を問うような問題が注目されている。

そのため、本稿では、文学作品の読解において基本となる風景描写・情景描写の比べ読みの試みについて紹介させていただき、不肖ながらも皆様方の一助となれば幸いです。

■比べ読みについて

比べ読みをする際には、異なる二つの本文が必要であるが、何も異なる二つの作品である必要はない。

授業展開となる。これにより、生徒自ら作品の〈深まり〉に目を向けることができる。

こうしたアプローチによって、作品の〈広がり〉と〈深まり〉に生徒自らが気づくことで、『読みの視点』の獲得へとつながり、他作品を読んだ際にも、それらの視点をもって読むことができるようになるだろう。

■単元構想・授業実践

授業は3年生2単位の学校設定科目を受講している21名に行った。「小説を書く」という大きな単元の中で、(1)人称、(2)人物設定、(3)表現(①オノマトペ、②直喩、③暗喩、④擬人法・偽物法、⑤倒置法)という小さな単元を設定して進めてきた。その次の小さな単元として、(3)情景描写を設定した。そのため、今回の授業は「書く」ために「読む」という行為をしたものであり、その点を前提にお読みいただければ幸いである。

授業は2時間で行い、1時間目は藤沢周平の「おぼろ月」を扱った。家路途中という短時間の中で月の描かれ方が異なる作品であるため、月を含め風景の一つとしてしか見えていなかったものが、登場人物の心情を表していたり強調していたりするという効果を実感しやすい。

そのため、問いとしては、「次の作品を読んで、物語

例えば、阿倍仲麻呂の「あまの原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」と、李白の「静夜思」「牀前月光を見る 疑ふらくは是れ地上の霜かと頭を挙げて山月を望み 頭を低れて故郷を思ふ」を比較し、どちらにも「望郷の想い」があることを読み取る、といった授業展開が比べ読みのオーソドックスな形であろう。これにより、生徒自ら作品の〈広がり〉に目を向けることができる。

しかし、「あまの原 ふりさけ見れば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」という、同作品を授業者が改変したものと比べてみてはどうだろうか。阿倍仲麻呂の作も授業者の作も、「望郷の想い」であることに変わりはない。しかし、「星」と「月」によってどのように印象が変わるかを精査することによって、わざわざ「月」を選択して表現したことが強調され、「月」であること、「月」以外にはならないことの意味にまで読解を深めた

の最初の月と最後の月の違いを読み取ろう！ ※月の見た目の違いではなく、月がその場面にもたらしている印象・イメージを読み取ること」とした。また、違いを書いた後には「なぜ同じ月にもかかわらず、そのように変化したのか？」という問いについても書かせた。授業の前半は個人で黙々と取り組ませ、一度ストーリーの確認をこちらで行った上で、後半では相談もさせながら取り組ませた。その結果、次のようにおおよその生徒が作品内での月の描写の変化を、理由も含めて読み取ることができていた。(以下、アルファベットは同一生徒を示す)

【物語の最初の月】

- A 不気味な雰囲気。危ない印象。
- B 不気味で、何か良くないことが起こりそうな感じ。
- C 不安。胸騒ぎ。焦り。

【物語の最後の月】

- A 月の光が自分を主人公みたいに照らしていて、今なら何でも出来て許されてしまいたいような、背中を押してくれているような月。
 - B ふわっとしていて神秘的というか清い感じ。
 - C 心情が変わって少しきらきらしている雰囲気。
- 【なぜ同じ月にもかかわらず、そのように変化したのか？】
A おさとの気持ちが変わったため、まわりの表現が変

化している。

B 主人公の心情の変化（最初は不安・恐れ、最後は安心・少しの反抗心）によって、見え方・雰囲気が変わった。

C 主人公の心情が、恐怖心や焦りから、反抗する勇気みたいなものに変化したから。

そこで、2時間目では次の(1)～(4)の比較を行い、作品を越えた月の共通イメージの検討を以下(図1)のようなワークシートを用いて行った。

(1)李白「静夜思」

(2)阿倍仲麻呂「あまの原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」

(3)与謝野晶子「なにとなく君にまたるるこちして出でし花野の夕月夜かな」

(4)中島敦「山月記」の月の描写部分

授業の流れとしては、李白「静夜思」と阿倍仲麻呂「あまの原」の各月のイメージと両者に共通する月のイメージを用いて、なぜ「日」や「御天道」といった太陽を表す言葉ではないのかと問いながら作品からの取り出し方を説明。そして、残りの作品および共通イメージについて、前半は個人、後半は相談をしながら取り組ませた。その結果、次のようにまとめられていた。

【(1)(2)(3)に共通するイメージ】

A さみしさ・こいしさ

B 想う気持ち

C 何かを想う

【中島敦「山月記」全体の月のイメージ】

A さみしさ

B 悲しみ

C 悲しい・冷たい

【(1)(2)(3)(4)に共通するイメージ】

A さみしさ

B 感情表現

C さみしい

共通する言葉にまとめられていたものの、単語での解答に留まっていること、語彙レベルの幼さが見受けられ、説明の不十分さが現れていた。

ただ、生徒からの感想には、「授業を受ける前は月のイメージが静か・神秘的などしかなかったが、授業を受ける和不気味や不吉などといったイメージも増えた。」「さびしさやはかなさなど、どちらかといえばマイナスのイメージがあったけど、作品によってはプラスなイメージにもなると思った。表現のしかたで印象を変えるのはむずかしそう。」とあり、月のもつポジティブ・ネ

◆李白「静夜思」阿倍仲麻呂「あまの原」・与謝野晶子「なにとなく」・中島敦「山月記」を読み、各作品での月のイメージ上段へ、作品を越えて共通する月のイメージを見つけて出そう！下段へ

李白「静夜思」の月のイメージ

阿倍仲麻呂「あまの原」の月のイメージ

与謝野晶子「なにとなく」の月のイメージ

中島敦「山月記」の各段別の月のイメージ

第一段落

第二段落

第三段落

第四段落

第五段落①

第五段落②

第六段落

第七段落

中島敦「山月記」全体の月のイメージ

◆あなたの月に対するイメージはどのように変化しましたか。＋授業の感想

【与謝野晶子「なにとなく」の月のイメージ】

A こいしさ（会いたいのに会えない）

B 願いや悲しみ

C 待ち人を想う

ガティブ両方のイメージの獲得につながる機会となった。

また、「小説を書く」という大きな単元にとっても収穫があり、生徒からの感想に「今までは人物以外の事は特に考えた事はなかったんだけど、こういう授業をやっていく中で、人物以外の風景にも少し関心が出た。人物以外にも状況を読み取れて楽しい。」「風景とかにも目を向けることで、暗示が読み取れるようになったり、人物とかを詳細に知ることが出来るようになった。」とあり、描き出したい心情を際立たせるための風景描写の必要性の理解につながった。

■おわりに

「場面に合わせた風景について理解できるようにしてほしい。読み比べをするか。では何を。月にしよう。」と思い到了たわけだが、いざ準備を始めると「月」を扱うことばかりに目が奪われてしまい、コンテンツベースに陥ってしまった。今年度の共通テストにおいても、「窓」についての二本の評論文の読み比べ、小説と資料の読み比べ、古典作品同士の読み比べについての会話文が出題されており、複数の文章から読み取る力が求められている。扱う能力に応じて教える材料となる文章を選び取れるよう、改善を続けていきたい。

▲図1 ワークシート

比べ読みをとおして気づきをつなげ、 筆者の感動に迫る

いのうえ まいこ
井上麻美子
東京都立若葉総合高等学校

■はじめに

令和七年から始まる新課程入試に向けて、複数の文章の比べ読みが注目されている。そこで、本稿では、大修館書店『文学国語』（文国704）掲載の小池昌代の随想「鹿を追いかけて」と、同筆者の詩「かもしか」、及び、「鹿を追いかけて」に挿入された村野四郎の詩「鹿」の三作品の比べ読みの試みについて述べさせていただく。

「鹿を追いかけて」には、「鹿」に関する筆者の幼少期の記憶が、村野四郎の詩と出会うことによって蘇ったことが述べられている。「かもしか」には、「鹿を追いかけて」にある筆者の幼少期の記憶と、類似した体験が詠まれている。まず、「鹿を追いかけて」にある幼少期の記憶と「かもしか」の詩との共通点と相違点を探ることにより深く「かもしか（鹿）」と利那に交感した感動を読み取っていく。次に、村野四郎の「鹿」と筆者の記憶の「鹿」との接点から記憶が蘇った理由を考察し、筆者が

二度にわたって受けた感動についてまとめていく。

■単元のねらいと概要

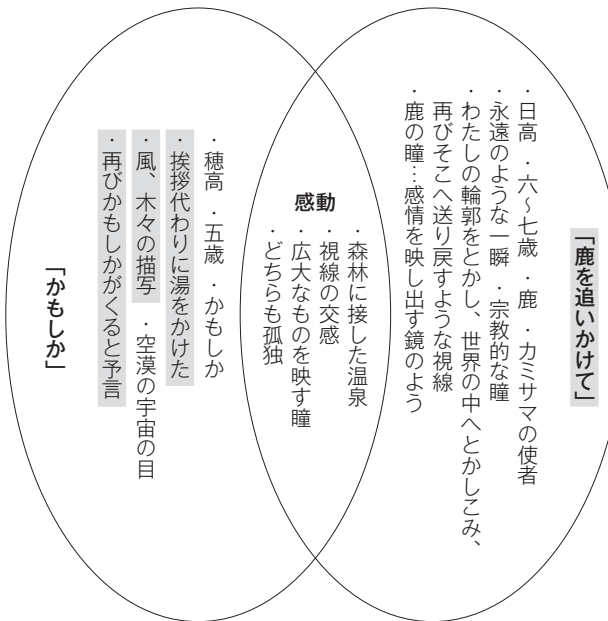
本単元は、比べ読みをとおして、そこから気づいたことを有機的につなげていき、筆者の感動に迫る学習の実践である。主に、学習指導要領「文学国語」の「知識・技能」(1)ア「言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること」、「思考力・判断力・表現力」B(1)ウ「読むこと」において、ほかの作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること、B(1)オ「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めていること」につながる実践となる。比べ読みをしたことによる様々な気づきから、それらをまとめ、意味付けを行うまでの思考の過程において、教師はファシリテーター

ターとしての役割を担うことになる。

■指導と評価の計画（全5時間）

1～3時は、「鹿を追いかけて」「かもしか」のそれぞれの作品の「構造と内容の把握」の学習とし、ここでの記載は省略する。本実践の比べ読みは4～5時の学習にあたり、「精査・解釈①・②」の学習となる。

時	学習活動	評価内容及び方法
4	・「鹿を追いかけて」の幼少期の出来事と「かもしか」の共通点と相違点を探す。 ・共通点・相違点から幼少期の筆者が受けた感動を探り、自分の言葉でまとめる。	（知識・技能）（1）ア（思考力・判断力・表現力）B（1）ウ・オ ・ワークシート
5	・幼少期の出来事と村野四郎の「鹿」の共通点と相違点を探し、記憶を蘇らせた理由を探る。 ・二度にわたって、筆者が受けた感動を読み取り、自分の言葉でまとめる。	



ワークシートのベン図に共通点と相違点を書き込んだ後、その中から筆者の感動に触れるキーワードを教師がピックアップする。ここでは「鹿を追いかけて」にはなかった「挨拶代わりに湯をかけた」と、その後の「風がわたった・木々の葉がゆれていた」という描写に着目し、発問を投げかける。

「鹿を追いかけて」は一貫して静の描写であったが、「かもしか」には動の描写がある。こうした動の描写には筆者が受けたインパクト・感動を補足して説明する効果がある。動の描写に触れて筆者の受けたインパクト・感動について説明せよ。

【解答例】お湯をかけたことでもしか（鹿）とわたしの心の交感がいずれ鮮明になる。生まれついていたものが必然的にもつ孤独に、かもしかが初めて触れられた瞬間だ。かもしかと一体であった森は、かもしかの心のごとく騒いだ。その光景がわたしの心に強く残ったということだ。

更に、「鹿を追いかけて」のタイトルに着目し、発問を投げかける。

随想のタイトルが「鹿を追いかけて」であるのに「かもしか」では、「わたし」が追いかけるのではなく、再び「あのときのかもしかが／きつとやってくる」と表現している。なぜだろうか。

人間と自然を対立構造化させた村野四郎の「鹿」と人間と自然の一体化を示した先の二つの作品の共通点を見つける学習を通して、村野四郎の「鹿」の何が、「わたし」の記憶が蘇らせたのか、その理由を考えていく。

三つの作品の共通点を見つけるには、相違点として挙げられたものを抽象化し、共通点を浮かび上がらせる必要がある。その作業には教師のサポートが必要であろう。幼少期のかもしか（鹿）の記憶を蘇らせた理由となる共

「鹿を追いかけて」「かもしか」

- ・世界の中へ溶け込ませる宗教的な瞳
- ・カミサマの使者
- ・交感の一瞬＝永遠

村野四郎の「鹿」

- ・ハンターに狙われている
- ・自分の生命の終わりを知っている
- ・深く、あきらめている
- ・おごそかな軽さ
- ・生と死の間の一瞬＝黄金

【解答例】かもしか（鹿）との視線の交感の心交感であり、人間の棲む言葉による選別の世界と宇宙のありのままの世界との交感でもあった。幼少期のかもしかとの出会いによる交感の感動に再び触れたいという思いをもっていたからこそ、かもしかの方からやってくる表現したと考える。なぜなら、「鹿を追いかけて」では鹿の瞳は人の感情を映し出す鏡のようである。更に鹿を「カミサマの使者」として感じており、自分の願いを叶えてくれる、という確信が筆者にはあったからだ。また、「永遠のような一瞬」という表現は、かもしかとわたしの心の刹那の一致が、永遠に続く一致となつたと解釈することも可能だ。

なお、解答例はあくまでも例であり、根拠を見つけないで、自由な発想で答えてもらいたい。

■幼少期の記憶と村野四郎の「鹿」

大人になってから、「わたし」は村野四郎の詩の中で幼少期の「鹿」と偶然再会する。ハンターに狙われた鹿は自分の生命の終わりを知っており、死を直前にした鹿は、次のように、「おごそかな軽さ」の様子で立っている。彼はすんなり立って／村の方を見ていた

生きる時間が黄金のように光る／彼の棲家である大きな森の夜を背景にして

通点を見つけた後、総括として次の発問を行う。

筆者は幼少期に出会ったかもしか（鹿）や村野四郎の鹿に、「永遠に続くような一瞬」「ありのままを見据える目」「大きな森の夜」「神聖」を感じた。これらの言葉を用い、筆者が二度にわたって心に受けたインパクトや感動についてまとめよ。

【解答例】本来、誰もが生まれながらにして孤独である。幼少期「大きな夜の森」で出会ったかもしか（鹿）は、選別しない目でわたしを見つめ、「永遠に続くような一瞬」の間、わたしは「神聖」な孤独が輝き合う世界に手を差し入れた。その感動は選別の世界に生きる中で忘れ去られても心の底では生きており、大人になって村野四郎の「鹿」の詩で蘇る。死を目前にした鹿は、「永遠に続くような一瞬」の間、あの時と同じように「ありのままを見据える目」をして選別の世界に棲むわたしに会いに来た。「神聖」な森を背に輝く鹿の姿にわたしは再び感動した。

■終わりに

共通テストでは、複数のテキストを用いて授業の会話場面等を想定した問題が出題されている。新課程入試でも複数のテキストを関連付けて理解する問題が予想される。テーマに沿って共通点や相違点をまとめ上げる力を身につけさせたい。

統計資料をもとに意見を書く

教科横断×ICT活用

おしま
大島かや子
東京都立桜修館中等教育学校

■はじめに

今回は『現代の国語』（大修館書店・現国706）の教科書を活用した「統計資料をもとに意見を書く」単元の授業案を作成しました。グラフや表などの非連続型テキストの読み取りは、新しい共通テストにおける「実用的な文章」でも出題されることが予定されており、総合型選抜試験でも多くの大学が採用している形式です。一方で、生徒たちにとっては、国語の授業でグラフや表などを提示され、分析するように言われても、必然性が感じられなければ学ぶ意欲を持ちづらい学習内容であるともいえます。そこで、生徒たちが学ぶ意欲をもって取り組むことができるという視点から、教科横断的な学びを取り入れ、他の教科で学んだことを活かして考えを深められるテーマを設定し、生徒たちがより学習内容の深まりを意識できるように授業を構想しました。また、一人一台端末を活用する活動も取り入れています。

■授業の流れ

【単元名】統計資料をもとに意見を書く
【単元の目標】資料から読み取ったことをもとに主張したいことを考え、論理的な文章にまとめられるようになる

①統計資料のデータを読み取る

まず初めに、教科書『現代の国語』内の「1解釈を挟まずに統計資料のデータを読み取る」にあるワークで、根拠となるデータを的確に読み取る練習をします。

②自分の主張に必要な情報を選び取る

次に、データから読み取ったことをもとに自分の主張を考えます。

◆教科横断

今回は、グラフや表などのデータが教科書に多数掲載されている保健体育科と連携することを想定し、保健体

育の教科書に掲載されている「健康問題」のグラフを使います。

◆ICT活用

ここで、一人一台端末を利用し、資料を読み取って実際に文章を書く際に主張することを考える活動を取り入れます。四人一班で同じ資料を見ながら、①で学んだ客観的なデータの読み取りを行い、気づいたことを共有します。今回は、Microsoft社のTeams内のアプリWhiteboardの利用を想定します。

〈手順〉

- (1) 班ごとのWhiteboardを作成・共有
- (2) 付箋機能を使って、一つの付箋につき、一つの気づきを書き出す

勤務校の中学二年生の授業でwhiteboardを活用してこの学習活動を行いました。端末を利用することで、普段なかなか意見を出しづらい生徒も気づきを言語化することができていました。また、授業者が前方のスクリーンにたくさん意見を出せている班の画面を共有することで、刺激を受けて停滞することなく意見を出すことができていました。授業者は全体の様子を見ながら「データを客観的に読み取る」ことと「自分の意見を主張する」ことが違うこ

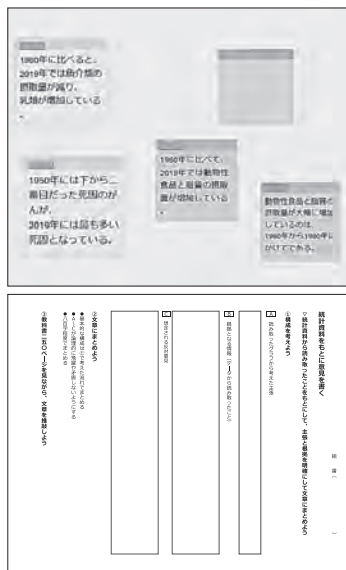
とである、ということを改めて指導できる点も利点です。

- (3) 同じような気づきが書かれた付箋を画面上で整理し、グラフや資料から読み取った気づきをもとに、主張を考える

画面上で付箋を動かしながら、同じような意見をまとめていきます。そこから、自分が主張することを決定していきます。班で同じ主張を設定した上で、個人で文章を書く、論理の飛躍の有無や妥当性などを相互チェックすることもできます。

③論理の飛躍がないか確認する

ワークシートに沿って主張と根拠を整理しながら文章の内容を考えていきます。班の中でお互いに読み合っ



Whiteboardの付箋機能(上)
ワークシート(下)

客観的に見て論理が飛躍していないか、主張を述べるために提示しているデータが適切であるかどうかチェックします。

④主張を文章にまとめる

教科書に掲載されている例文や、巻末の文章の書き方などを参考にしながら、短い文章で主張を文章にまとめます。この時に、先ほど作成したワークシートをふまえながら、論理の展開を意識してまとめていきます。

■評価について

今回の単元では「書くこと」の評価を行います。

国語科として、「データから読み取ったことを主張と根拠のつながりを意識しながら適切に表現することができたか」という点について、書かれた文章をもとに評価を行います。内容については、保健体育科の評価とすることで、それぞれの教科の観点での評価が可能となります。

■テーマ設定と使用する資料について

「はじめに」でも述べたように、このように文章を書く授業については、テーマ設定が重要であると考えられます。生徒たちの実態に合わせて適切なテーマを選ぶことができれば、学ぶ意欲の向上にもつながるとともに、より探究的な学びを深めることができます。しかし、授

業者にとつては、統計などのデータを教材化することは、時間と労力がかかる作業でもあります。適切なテーマを設定し、生徒たちに提示する資料を教材の形にするためには、授業者側の発想力も求められ、戸惑う先生も多いのではないのでしょうか。

今回は保健体育科の学習内容を取り上げましたが、学習内容で統計資料などを扱う教科と協力することで、教材の準備がスムーズにできるようになります。また、統計資料を用いた学習活動に対する生徒への意欲喚起にもつながると考えられます。国語科としては、データの中身について踏み込むことよりも、データから読み取ったことを文章で適切にまとめることに主眼を置くべきです。積極的に他教科と連携し、他教科で扱った内容をふまえて実用的な文章や統計資料などを扱うことで、生徒たちにとつても授業者にとつても負担感を減らしつつ、より深い学びができるのではないのでしょうか。

また、生徒の関心事などに合った話題や、時事的な話題を取り上げることも有効です。勤務校では、前期生で新聞記事のスクラップノートを作成し、意見交換を行う学習を行っています。生徒たちの対話に耳を傾けると、他教科で勉強したことが関連付けて関心を持っている様子が見られ、教科横断のヒントが見つかることもあります。

す。教科書に掲載されている複数の統計資料の中から目の前の生徒が関心を抱くテーマのものを選り、時事的な話題と関連付けることで、教科書を活用しながらの授業が展開できるのではないのでしょうか。

幅広い分野の様々な形式のデータを用いて文章を書くことに早いうちから慣れておくことで、大学入試の際にもメリットが多くあるでしょう。自分が進学を希望する学問分野ではない分野の資料に数多く触れる機会を持ち、視野を広げておくことで、小論文を書く時や面接試験の際にも、より深い考えを述べるができるようになると思われれます。

■ICT機器の活用について

ICT機器を活用することで生徒たちの意見共有や思考の発散、視覚化をより有効に行うことができると思われれます。今回利用を想定したMicrosoftのWhiteboardは、従来授業の中で行っていた付箋を使った思考発散や視覚化を、タブレット上で行うことができるものです。実際、勤務校の中学二年生は初めて利用しましたが、操作にはあつという間に慣れて、どんどん書き込みをしていました。授業後に感想を書いてもらうと、「他の人の意見を参考にすることができて良かった」「慣れてしまえば使いやすい」という意見も多く出ました。

一方、グラフや表などの資料をデータ化して配布することで紙媒体を減らすことを目指しましたが、こちらについては「画面が小さくて見づらい」「紙の方が見やすい」という意見もあり、資料の性質や生徒たちの実態に合わせて対応していく必要があると感じています。

■おわりに

今回は教科横断やICT活用を盛り込んだ授業案を作成しましたが、国語科として身につけたい力としては、資料を客観的に読み取ること。
・主張したいことと根拠が論理的に飛躍しないように構成すること。

が特に重要だと考えられます。実際に授業で扱ってみると、読み取りの段階で主張が入ってしまった、根拠となることと主張がかみ合っていないかったりしました。これらの力は、評論文の読解や様々な形式の小論文の構成を考える上でも重要なものです。他教科との連携やICTの有効活用をしながら、このような実用的な文章を用いた単元も積極的に扱い、新入試にも対応できる思考力や表現力を総合的に育てていきたいと考えています。

※本授業案は、勤務校の中等教育学校前期課程二年生(中学二年生)を対象に実施した授業をもとに構想し、実際の生徒の様子をふまえた上で作成しました。

「絵を見る技術」をとおして 絵画を言語化する

池上正子
いけがみまさこ
東京都立松原高等学校

■はじめに

大学入試では、非連続型テキストや複数のテキストでの出題が増えました。「論理国語」の目標や指導事項である、「創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが出来る」、「情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する」といった力が必要となります。その力をつけるにはどのような授業が有効なのでしょう。本稿では、『論理国語』（論国705）掲載の「絵を見る技術」（秋田麻早子）を用いて、絵画の意図するところを考え、言語化した実践を紹介します。

■授業の概要とねらい

【目標】

文と図版を関係づけて読むことをとおして、段落相互の関係に注意しながら、書き手の意図との関係において構成や展開を積極的にとらえ、今後の学習に生かす。

【教材の概要】

「絵を見る技術」は、「観察」から得られることについて、一枚の絵を例にして解説した評論です。「見る」として「観察」することの違いを、適切な素材を利用しながら平易に解き明かし、視覚情報からより多くの情報を読み取る方法を提示しています。本文の読解をふまえて、「初見の絵画」の観察を行い、どのような枠組みを前提としているかをメタ的な視点でとらえます。

■授業のながれ

①「絵を見る技術」の読解

・意味段落ごとに「しかし」「つまり」といったディスコースマーカーを使って論の展開を押さえる（この読解方法に生徒は慣れています）。

②最初の観察

・絵画を二種類（マルク・シャガール「誕生日」・ウィリアム・ホガース「当世風結婚」）用意し、3グループ

④各班の観察結果発表

・観察した絵の次のような観点について、絵の中の根拠を示しながらプレゼンテーションする。

○いつ ○どこ

○誰がいるか ○大きく描かれているのは何か

○色、タッチ ○何をしているか

○どのような意図で描かれたのか

・聴くグループはメモシートに記録し評価する。

⑤初見の印象と観察後の印象の違いをシートにまとめる。

■授業の様子と生徒の振り返り

生徒は活発に話し合いを進めていたのですが、ややもすると妄想になってしまったため、「絵のどの部分からそう考えたのか」という問いを机間巡視しながら投げかけました。これは彼らに、根拠の大切さを認識させた、という点でよかったようです。

生徒からの振り返りは以下のようなものが多かったです。

- ・他の人の意見を聞いて、そのような考え方もあるのかと気づいた
- ・絵の中のヒントを探しながら考えるのが楽しかった
- ・同じ絵を観察しても班によって違う見解があって面白いと感じた



シャガール「誕生日」(上)
ホガース「当世風結婚」(下)

- ・プずつ計6グループに分かれ、観察する。その絵画の意図するところを考える。（初見の印象）
- ・初見の印象を青のふせんに書いてシート状の「どこでもホワイトボード」に貼っていく。
- ・グループごとに読み取ったことを発表する。
- ・ふせんを貼ったホワイトボードを撮影し、「Teams」にアップする。
- ③観点ごとの観察
- ・後述の観点別に考えたことを、どこからそう読み取れるかを押さえながらピンクのふせんに書き出しボードに貼っていく。
- ・撮影し、「Teams」にアップする。

入試 統計資料の読み取り

「現代の国語」で統計資料を「読む」

あかお あつし
京都市立西京高等学校

はじめに

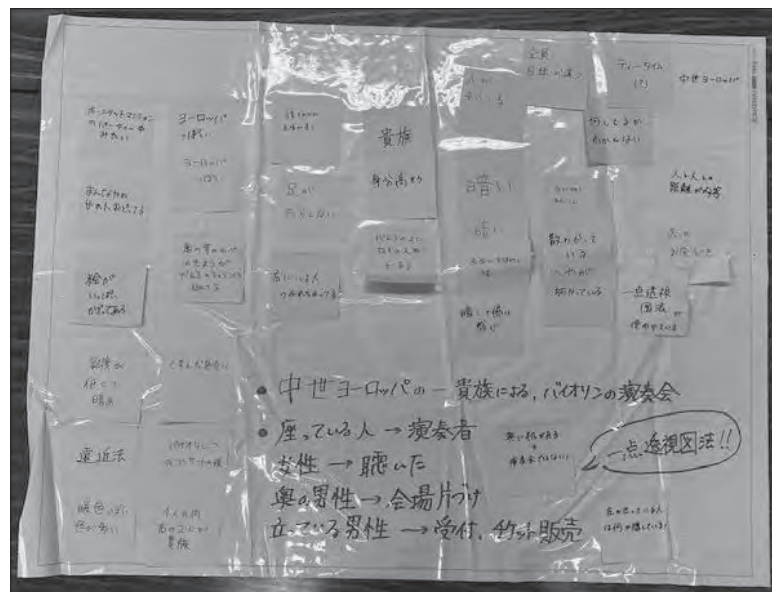
周知のとおり、大学入学共通テストは令和七年度より国語の試験時間が八十分から九十分へと十分延長され、問題が従来の四題構成から五題構成に変更される。「令和七年度大学入学共通テスト」出題の方向性及び試作問題の公表に関する説明資料（令和四年十二月二十七日掲載、以下「説明資料」とする）によれば、「様々な資料から読み取ったことを基にレポートを書くといった、言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うことができるよう、大問を一つ追加（傍線筆者）」する旨が説明されている。

また、「令和七年度大学入学共通テスト 試作問題「国語」の概要」（令和四年十一月九日公表資料、以下「試作問題」とする）によれば、「図で示された内容を文章で示された内容と関連づけながら、図の内容や表現について多角的に検討し、よりの確に捉えたり、表現の意図を解釈したりすることができているかを問う（傍線筆者）」ことを、

新たに追加される「第3問」（配点二十点）のねらいの一つとして、文章という「連続型テキスト」を題材にした問題の場合、（よく練られた問題も多いものの）、本文の叙述内容を十分に理解しないまま選択肢を吟味し、「本文に書かれている／いない」という観点のみに基づいて検討しても解答することができてしまう問題も残念ながら散見された。

しかしながら、図表などの統計資料といった「非連続型テキスト」の場合は、読み取った内容をアウトプットするには必ず自ら言語化する必要がある（「意味もわからないまま本文の表現をなぞる」といったことはできない）。そのような点では、今回の国語の共通テスト問題の改革によって、従来の「連続型テキスト」の内容に関する多肢選択方式問題で測りきれなかった国語の学力を

・ホワイトボードを囲んでふせんをぺたぺた貼っている作業が、考えが視覚化されてまとめやすかった



ふせんを貼ったホワイトボード

・教科書を読んでからの観察だったので取り組みやすかった
・今何をすべきかがパワポで示されていた
・議論の前の「3K」（敬意をもって・忌憚なく・建設的に）の説明で話し合いが気持ちよくできた

おわりに

私たちは大人も含め、つい正解が何かを知りたがりますが、正解のない時代で生きていくために、問いを立ててもすぐ答えの出ない状態に耐えていくネガティブケイパビリティが求められると思います。絵の観察は、「正解がない」というところで生徒の心理的安全性が保て、一方で絵の中の情報を根拠として整理しなければならぬという制約の中で行われます。そして、教科書の文章と絵画という複数のテキストを関連づける能力をばぐむ上で有効であったと思います。

以上を全国連（二〇二三年一月）の研究授業で実践してみました。授業デザインをするにあたり、自分のイタリア留学の経験と、MOMA美術館の「VTS（Visual Thinking Strategy）」若桑みどり先生の「イコノロジー」三森ゆりか氏の「言語技術」を参考にしました。この記事を読まれている先生方は、これらの絵の主題は何だと思えますか？

新たに測ることができるようになるのではないかと、個人的に期待しながら今後の動向に注目している。

大修館書店の『新編 現代の国語』（現国707）では、教科書の随所に「グラフを読む」というコラムが掲載されており、グラフを読み解いて考えたことを交流する学習活動が想定されている。そこで、このコラムで提示されたグラフを題材に、いくつかの取り組みを実践してみた。

■【取り組み1】グラフの読み取りをメタ認知する

統計資料を読み解くための「ものの見方」を意識化できるようにすることを目指して、次のようなグループワークを行った。

- (1) 「グラフを読む⑧ メディアに対する信頼度」から読み取れる内容を思いつく限り付箋に書き出させる。書き上げた付箋は、グラフのコピーを貼った用紙の余白部分に貼り付けさせた（ICTを活用して同様のことを行うことももちろんできるが、対面授業が当たり前にできるようになった現在の状況下では、顔を突き合わせてのグループワークも楽しいものである）。
- (2) その上で、(1)の内容を読み取る際にどのような観

とめさせる活動を行った。

実際に文章にまとめる上では、「グラフを読む⑥ ボランティア活動に対する意識」のように、結論が一つの方向に集約される統計資料を練習で用いると行いやすかった。

■【取り組み3】グラフの一部を隠して読む

【取り組み2】までを終えて、なかなか一つの統計資料を「多面的・多角的に」読み解くことが難しい様子が確認できた。そこでそのような姿勢を身につけるため、視野を広げる練習として、提示するグラフに少し加工を施すことを企てた。

- (1) 「グラフを読む② 言葉遣いに対する意識」と、「グラフを読む④ 通信手段と誤解・トラブル」のうち「誤解やトラブルを招きやすいと感じる手段・手法」について、意図的に一部を隠した状態で提示して、読み取れた内容を書かせた。
- (2) 次に、隠していた部分を明らかにして、新たに読み取れた内容を言語化させた。

このようにスモールステップを踏むことで、実際に多くの生徒が一面的な読み取りから脱することができた。特に④のグラフにおいては、大半の生徒が「全体」の数

点を用いていたのかをふりかえらせ、先ほどと異なる色の付箋に書かせて横に貼り付けさせる。

- (3) (1)(2)の内容をもとにクラス全体で交流を行う。
 - (4) (3)までの学習のふりかえりを言語化する。
- 自らの読み取りを「メタ認知」することをねらった取り組みであったが、高校一年生の発達段階からは少々難度が高かったようで、「各年代の一番高い（低い）部分に注目した」など、きちんと分析できているものもあるにはあったが、実際のところあまりうまくはいかなかった。やはり「現代の国語」の取り組みとしてはもう少し工夫が必要であった。

■【取り組み2】読み取った内容を報告文にまとめる

「グラフを読む⑩ 働くことへの意識」を用いて、今度は個人で内容の読み取りを行わせた。

- その際に【取り組み1】で生徒がメタ認知したもののうち、
- ・（項目間の）「共通点」や「全体の傾向」（に注目）
 - ・（項目間の）「相違」や「外れ値」（に注目）
 - ・「最も〇〇」な値（に注目）

といった観点を共有した状態で考えさせた。

その上で列挙した読み取り内容を、報告する文章にま

値と「SNSの実際の利用率が高い世代」の数値との間の乖離に注目することができた。

■【取り組み4】グラフを批判的に読む

冒頭の「説明資料」でも「様々な資料から読み取ったことを基にレポートを書く」言語活動が想定されている通り、情報の受信者としてだけでなく、発信者としての視点も身に着けてもらうために、次のような取り組みも行った。

- (1) 「グラフを読む⑪ 学校生活をどうとらえるか」のうち、「学校生活の満足度」のグラフを提示し、そのグラフが一定の結論を誘導するよう情報が取捨選択されている可能性を考察させた。案の定、生徒の解答としては「日本の若者は諸外国の若者と比べて学校生活に満足していない層が多い」という結論を導いた生徒が大半であった。
- (2) 次に、(1)と異なる結論を導くためにはどのような情報を提示するべきかを考えさせた。ここまでの取り組みの中で、提示された統計資料には表面化していないデータもありうることを理解済みの生徒たちは、「日本よりも学校満足度の低い国のデータも比較対象として提示することで、一八〇度異なる結論

が導かれる可能性がある」という考察を出すことができた。

授業後のふりかえりの中では、「自分の主張を裏付ける資料を提示しようと思うと自分の主張に誘導するような資料になりがちだが、そこを客観視できるように気を付けたい」と述べる生徒もいる一方、「その資料が何を結論付けやすいかを考え、それを自分の目的に合わせる（ことが大切だ）」「グラフの提示の仕方次第で一定の結論を誘導することもできるので、提示するグラフを考え」と述べた生徒もいた。どちらの視点も持ち合わせていることが、実際に社会で生き抜くためには大切であると思う。

このような考察が生徒の中から出てきた上で、教科書の「たったひとつの『真実』なんてない」（森達也）を読ませると、さらに理解も深まるのではないだろうか。

■おわりに

冒頭の「試作問題」を見ても、本来は文章と図表を関連させて理解することが想定されており、図表の読み取りのみを扱うことは想定されていないと思うが、統計資料のような非連続型テキストを読み解く学習活動を国語科で行う以上は、統計資料の中に込められた情報を

「どのように」読み取り、「どのように」言語化するのか、ということに焦点を当てた学習活動を計画していくことが必要だと考えた。

また、単元全体で見ると、読み取った内容を文章にまとめているので、学習指導要領の「調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる活動」（書くこと②ウ）を通して「目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること」（B書くこと①ア、傍線筆者）を指導することにも相当するものと考えた。

筆者自身、これまでの教員人生をふりかえると、授業実践がやはり連続型テキストの「教材ありき」のものに偏っていた感是否めない。国語科は「言葉を通じた理解や表現」及びそこで用いられる「言葉そのもの」を学習対象とする教科であるが、これまでの連続型テキストを教材とした授業よりも、意外なことに今回の実践の方が生徒の「言葉を紡ぐ」姿勢を垣間見ることができた。

「統計資料を『読む』」という実践はまだまだ発展途上であるが、生徒の言語生活を豊かにするために、今後も授業の中に取り入れる工夫を重ねていきたい。

入試 面接・総合型選抜

自己推薦書を題材とした「書くこと」の授業

戸塚 匠 とつか たくみ

茨城県立つくば工科・つくばサイエンス高等学校

■はじめに

自己推薦書とはどのようなものかと考えてみると、「自分自身がどのような人間かを説明し、入学を希望する大学等にふさわしい人物であることを示すための文書」ということができそうです。受験に際してこういった書類の提出を求められる生徒はこれからさらに増えていくものと思われま

す。しかし、生徒の様子を見ると、入試の直前に提出すべき書類を持参し添削を求めはするものの、教員が加えた添削の意味をよく考えずに、目先の入試に間に合えば良い、と形だけ文章を整えてしまう生徒が少なくないように思います。これでは、生徒の書く力は伸びず、卒業後も生きる能力には成り得ません。

このような問題意識を背景に、自己推薦書を題材として、「目的に応じて情報を取捨選択し、他者からの意見を取り入れつつ、自分自身で文章を整える力」の育成を

目指した授業の展開例を作成しました。

■「論理国語」における「書くこと」

まず、学習指導要領との関係を考えます。お示しする授業は、「目的に応じて情報を取捨選択し、他者からの意見を取り入れつつ、自分自身で文章を整える力」を育むための学習です。そこで、今回は「論理国語」A書くこと①「カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。」に焦点を当てます。評価の際には、後述する「準備メモ」の記述内容や、最初に書いた自己推薦書が他者からの添削や目的の変化によってどのように変化し二回目の自己推薦書となったかを、見取りたいと思います。

■授業の展開

ここから、具体的な授業の展開例を述べます（『新編 論理国語』（論国706）の教材を使用）。

(1) 自己推薦書について理解する。

はじめに、自己推薦書がどのような文書なのか、どのような目的で用いられるのかを確認しておきます。自身が「希望する大学等にふさわしい人物であることを示す」ために作成するものである、ということを変更して理解しておくことで、後述の学習に取り組みやすくすることを狙っています。

(2) 自分を分析し、準備メモを作成する。

自己推薦書を書くためのメモを作成します。教科書に掲載されているようなメモを活用し、生徒自身の特徴を各々が客観的に分析し、できるだけ具体的に記述していきます。生徒によって取り組む速さに差が出ることが予想されるため、自由記述欄を広く用意する等して、どんな書き進めていくことのできる生徒が時間を持て余さないようにしたいと思います。

(3) 取り組む課題を選択し、準備メモから取捨選択する。自己推薦書作成に関する複数の課題を準備して、その中から生徒自身が取り組みやすいものを選んでもらいます。ここでは、例として次の三つをお示しします。

① ○○大学教育学部幼児教育学科

・教育に関心があり、日本の幼児教育に積極的に関わろうとする人を求める。

② △△体育大学スポーツ科学科

・スポーツに関心があり、スポーツ科学の発展に貢献しようとする人を求める。

③ ○○大学国際学部国際学科

・国内外の文化に関心があり、人々と協働してグローバル社会で活躍しようとする人を求める。

選択した大学に出願する、と仮定して学習を進めます。

まずは(2)で作成した準備メモを吟味し、大学が求める人物像に合わせて、自己推薦書作成に使うものと使わないものにと取捨選択していきます。

(4) 自己推薦書を書く

(3)までを踏まえて、自己推薦書作成に取り組みます。いきなり原稿用紙を渡して書かせるのではなく、授業者が書いた自己推薦書と準備メモの例を提示しておきまします。準備メモに記した材料を結びつけて文章にしようとするところで躓く生徒が少なくないため、授業者自身が準備メモをどのように考えて推薦書完成に至ったのか、思考の過程を解説することも一定の効果が期待できます。

(5) 他者の意見を取り入れる。

数人のグループを作成し、完成した自己推薦書について相互添削を行います。終了後には、全体でどのような

自己推薦書を書く

① 書くことを膨らませよう

自己推薦書を書くために、自分の特徴を客観的に見つけ、書くための材料を膨らませよう。左のように、表にして観念ごとに自分の特徴を挙げ、それぞれについて、具体例やエピソードなどをメモしてみよう。

観念	自分の特徴	具体例・エピソード
得意なこと	保育士	・自分も保育園出身。保育園仲間と兄弟のようだった。
得意なこと	好奇心が強い	・協調性を育む保育士になりたい。
得意なこと	物怖じしない	・ほかの人の趣味や特技を聞いて、自分も好きになってしまった。
得意なこと	イラストを描くこと	・人気漫画の登場人物をてくぐりに描ける。
得意なこと	子供と遊ぶこと	・近所の子供や親戚の子供たちの相手。
得意なこと	短距離走	・中学時代は陸上部。
得意なこと	子供との触れ合い	・近所の子供たちや親戚の子供たちと遊ぶ。
得意なこと	漫画を読むこと、描くこと	・月に二〇冊以上読む。
得意なこと	漫画を読んだり描いたりすること	・ヒットする前にヒットする作品を手言てき。
得意なこと	ほかの人のよさを引き出せる人	・子供の頃は漫画家になったかった。
得意なこと	小学校の恩師。人を励ますことの名人	

▲『新編 論理国語』（論国706）pp.204-205 「自己推薦書を書く」

■おわりに

「希望する大学等にふさわしい人物であることを示す」ために自分自身のどの部分に着目し、どのような言葉で伝えるのが効果的か、と考える訓練は、面接試験の対策にも繋がっていくと考えています。形だけの、受け売りの言葉でなく、生徒が自身の言葉を使いこなせるように指導していきたいと思っています。

生徒同士の学び合いを軸とした面接の指導

たかはしよしき
高橋慶熙

日本大学第一中学・高等学校

■はじめに

令和五年二月に文部科学省から発表された「大学入学者選抜の実態把握及び分析に関する調査研究」によると、二〇二二年度の大学全体の入学者選抜方法のうち、一般選抜は43・3%、学校推薦型選抜は26・9%、総合型選抜は16・8%あり、学校推薦型選抜と総合型選抜の合計は、43・7%となります。学校推薦型選抜及び総合型選抜ではほとんどの場合、小論文や面接が課されているため、多くの生徒が小論文や面接の指導を求めていると考えられます。

よって、今回は「国語表現」での面接指導についての実践構想をご紹介します。

■単元の概要

(1) 単元の目標

・面接という場を踏まえて、自身の事柄の中から他者

に伝える内容を決め、さらに他者との交流を踏まえて伝える内容を精査する。

・他者の反応に応じて言葉を選んだりするなど他者の同意や共感が得られるように様々な表現を工夫する。

(2) 教材

・大修館書店『国語表現』（国表701）

「面接にチャレンジ」（pp.110～113）

「自己紹介ゲーム」（pp.36～37）

(3) 各次の学習内容

【第一次】

第一次では、総合型選抜での面接試験を想定し、面接での質問とその答えを作成します。まずは、面接での質問を想定していきます。

面接で問われるであろう質問が思い浮かばない生徒に

は、自身が面接官としたら、どのようなことを聞きたいかを考察するように指導していきます。さらに、質問の答えが思い浮かばない生徒には、まずはその質問で面接官にどのようなことを伝えたいかを考察するように指導します。最初から詳細に伝えたいことを考えても良いですが、それが難しい場合にはまずは大雑把でも伝えたいことが明らかになった後に、より詳細に伝えるべきことを考えるように指導していきます。

【第二次】

第二次では、『国語表現』の「自己紹介ゲーム」（pp.36～37）で紹介されている「サイコロ自己紹介」を応用した活動を行います。最初に六人グループに分かれて、第一次でどのような質問を想定したのかを共有します。その後、サイコロの各面に一人一つずつ第一次で思いついた質問を記入します。記入後、サイコロを振っていき、出た面の質問に回答していきます。

このサイコロを使用したゲームの意図は、他者の反応を踏まえて、質問に答える学習をすることです。面接で大事なことは、面接官とのコミュニケーションです。作成した質問の答えをただ読めば良いわけではありません。面接では、面接官との対話の中で質問に答え、自身の伝えたいことを面接官に伝える必要があります。その

ため、生徒たちにはこの意図を伝え、グループでの反応を踏まえて言葉を選んだり、必要であれば身振り手振りなどのボディランゲージを取り入れても良いことを伝えます。

授業者は机間巡視を行い、グループの反応を踏まえて質問に回答できているかを確認します。机間巡視を行った際、第一次で想定していなかった質問に答えることになってしまった生徒もいることが予想されます。そのため、回答役の生徒が質問に回答できず、沈黙が流れてしまうグループがあるかもしれません。その場合は、想定外の質問をされて答えることが難しいときに、面接官に対してどのような返答をすれば良いのかを考察させます。

ゲーム終了後、他者の反応を踏まえて質問に回答することができたかを振り返ります。またこの際、第二次の活動の中で自身が想定していなかった質問があった場合は、その質問をノートやワークシートに記入し、答えを作成するように指導します。

【第三次】

第三次では、最初に『国語表現』のp.112に示されている面接のマナーについて確認します。その後、三人グループに分かれて、面接官役二人と受験者役一人で面接練習を行います。面接官役と受験者役はそれぞれ交代して、

グループのメンバー全員が受験者役をできるようにします。可能ならば、受験者役が入室するところから面接練習を行います。それが難しい場合は受験者役が入室した後、面接官役が質問するところから面接練習を行います。

第二次では一問一答形式で質問に回答しましたが、第三次では、質問への答えを踏まえて次の質問を行います。

例えば、実際の総合型選抜の面接試験では、「あなたの長所や短所は何ですか。」という質問に回答した場合、「なぜその点を長所だと思ったのですか。」という質問や「その長所は高校生活のどの場面で活きましたか。」という質問が続くことが想定されます。そのため、活動を行う前に、面接官役の生徒に受験者役の生徒の答えを踏まえて質問しても良いことを伝えておきます。

一人の受験者役の面接時間は5分程度を想定します。一人の受験者役の面接練習が終わった後、面接官役との対話の中で質問に答え、自身の伝えたいことを面接官役の生徒に伝えられたか、面接官役の反応を踏まえて言葉を選んでいたかを振り返ります。振り返りの内容は、第一次・第二次で作成した質問及び答えと併せてノートやワークシートに記入しておくように伝えます。

■おわりに

高等学校での小論文や面接の指導は多くの場合、個別指導で行われているかと思いますが。それは、教師から生徒への指導と言えます。しかし、今回の実践構想は、生徒と生徒の学び合いを軸としています。生徒同士が学び合うことで、新たな発見もあるのではないかと思います。で、今回の実践構想を紹介させていただきました。

もちろん、今回の実践構想だけで面接の指導が完結するわけではありません。面接のマナーについては確認しただけです。この実践構想を踏まえて、何度も面接の練習をする必要があるかと思っています。

しかしながら、現在の高等学校での現状を踏まえると、教師からの指導、生徒同士での学び合いという両輪が面接指導には求められていると考えられます。今回の実践構想が面接指導について考える機会になれば幸いです。

参考文献

・文部科学省（二〇二三）「大学入学者選抜の実態把握及び分析に関する調査研究」
https://www.mext.go.jp/content/20230417_mxt-daigaku01-000028258_1.pdf
 （参照 二〇二四年一月九日）

入試 現代文と古典の融合

作品の時代背景を知り、小説の解釈を深めよう

ち ぢ ま つ ふ み こ
千々松芙美子

お茶の水女子大学附属高等学校

「羅生門」と『方丈記』を併せて読む――

■はじめに

新課程が始まって二年となり、令和七年一月からはいよいよ新課程入試が始まる。それを見据えて、教室では各学校の実情を踏まえた多様な授業の試みがなされている。時代や形式の異なる複数の文章を読み、情報を関連づけて解釈する力を育成することは、今後ますます必要となってくるだろう。一方で、「言語文化」では配当時間の関係もあり、近代小説に関してはあまり時間をかけられないという悩みもあるのではないだろうか。

そこで、「言語文化」（大修館書店・言文705）掲載の「羅生門」を古典作品と併せて読む授業を提案したい。「羅生門」についてはこれまでも典拠となった『今昔物語集』との比べ読みなどの実践が数多くなされてきたが、ここでは教科書掲載の「探究 災害の記録」から『方丈記』の「安元の大火」「治承の辻風」を用いて作品の時代背景について考察し、小説の解釈を深める授業を構想した。

■時代背景を補助線として小説を読む

「羅生門」の舞台となる平安末期は、度重なる災害によって日常が破壊され、それまでの価値観が大きく揺らいだ時代である。こうした作品の時代背景について他のテキストを参照するとともに、自分で調べたり、調べたことをもとにした考察を他者と交流したりする活動をおして、登場人物の置かれている状況のみならず、彼らの心情や行動を多角的に考察することが可能になるだろう。また、歴史的事実としての災害がそれぞれの作品においてどのように描かれているのかを知ることが、現代にもつながる災害と社会・人間との関係について自分なりの考えを持つための契機となるはずである。

作品の時代背景を単なる設定として読み流すのではなく、歴史的事実への理解を深め、それらの知識を踏まえて作品を読み直すことで、小説の解釈を深めることを目指したい。

学習に際しては、教科書掲載の「解釈の視点⑤ 作品の背景」を参照することで、文学作品の背景について知ることの意味やそのための手立てについても理解を深めることができるので、ぜひ活用したい。

以下、具体的な授業展開例について述べる。

■授業展開例（全八時間）

・第一次（一～二時）

①「羅生門」を通読する。

時代や人物の設定、下人の心理の変化や老婆とのやりとりなどについてグループで整理し、疑問点や感想を共有する。精密な読み取りを行うのではなく、ポイントを絞って全体の流れをつかむようにしたい。

・第二次（三～五時）

①『方丈記』『安元の大火』『治承の辻風』を通読する。

具体的な被害やそれに対する作者の捉え方が述べられた箇所を中心に整理するとよいだろう。必要に応じて現代語訳を配布したり、便覧や地図などを活用したりして当時の京都の様子を確認させるとよい。

②「安元の大火」「治承の辻風」の他に、この時代に起きた災害や社会に大きな影響を与えた出来事について調べる。

与える影響について、下人や老婆の言動、心情の変化に即して再度話し合う。更に、「羅生門」において時代設定が作品全体にとってどのような意味を持つているかについても話し合い、結果を発表して全体で共有する。

③学習のふり返しシートを記述し、作中の時代背景や社会状況について学ぶ前と後で、作品の読み方や人物の捉え方にどのような変化があったかをまとめる。

*可能であれば、時代背景について調べたり話し合ったりしたことを踏まえて批評文を書くといった活動にも取り組ませたい。

■発展学習として

以上に加え、余裕があればダニエル・デフォー「ペスト」を紹介してもよいだろう。この作品には、疫病に襲われたロンドンの街における市井の人々の多様な姿が描かれている。特に、社会的に低い階層に置かれた人々の生活の不安定さや死者を埋葬することすらままならない現実、ごく普通の人々が盗みに手を染める様子など、「羅生門」との共通点も多く見出される。同時に、災厄の中で他者を助けようとする人々の姿も描かれており、この点は教科書掲載の芥川「大震雑記」と比較し

『方丈記』における他の三つの「災厄」（「福原遷都」「養和の飢饉」「元暦の大地震」）について、要旨を紹介してもよい。また、辻風が起こった治承四年（一一八〇年）はこの後に続く源平の争乱の始まりとなった年でもある。歴史の学習をとおして学んだことや、図書館の資料、インターネット等を活用して当時の状況を確認し、「羅生門」の舞台が大きな時代の転換期を迎えた京の都に設定されていることに気付かせたい。

③災害が人々の生活や心のありように与える影響についてグループで話し合う。

ここでは、現代における自然災害や感染症の流行なども含めできるだけ自由に考えさせたい。甚大な被害をもたらす自然災害は度々起こり、生徒たちにとっても身近な問題であろう。また、コロナ禍において、それまでの日常が大きく変わる経験もしている。生徒たちが自分自身に引きつけて考察することが重要である。

・第三次（六～八時）

①グループで「羅生門」を再読しながら、下人や老婆の人物設定、彼らの置かれた状況について、『方丈記』を読んで考えたことや自分たちで調べた情報と結びつけながら整理する。

②整理した内容をもとに、災害や社会の変化が人間に

ながら読むこともできる。「災害」という観点で日本における言語文化を捉え直すことにとどまらず、翻訳作品を通して世界文学との共通点や相違点へと関心を広げたい。

■終わりに

文学作品は多様な人間の姿を描いており、その背後には人間が生きる社会や歴史が存在する。それらを踏まえて作品を読むことは、言葉によって蓄積されてきた言語文化そのものを掘り下げることにつながるだろう。

本稿では、小説に描かれた時代や社会状況に着目し、古典作品を併せて読むことで解釈を深める授業案を提案した。こうした授業をとおして、新入試においても求められる、時代や形式の異なる複数の文章を読み、必要な情報を関連付けながら文章を解釈したり、自らの考えを深めたりする力を育むことができると考える。

更に作品成立時の時代状況などについて調べ、レポートを書くといった教科横断的な学習へと展開することも可能である。時代やジャンルの異なる複数のテクストを教室の実態に合わせて活用し、適切な言語活動に取り組むことで、社会やそこで生きる人間の多様な姿について、様々な情報を相互に結び付けながら生徒自身が考察を深めていくことができるだろう。

新入試で問われる力を「めじるし」に、教材をつなぐ「言語文化」の授業

きたむらたぐや
北村卓也

長野県坂城高等学校

■はじめに

新学習指導要領の施行より二年が経過しました。それに伴い、各科目の授業がそれぞれの高等学校の現場で日々実践されてきています。さらに令和七年には新課程の指導事項を踏まえた大学入試(新課程を踏まえての「大学入学共通テスト」)が予定され、「試作問題」も発表されました。その中で、どのように授業をデザインすることで、効果的な学習成果が得られるか、今後ますます注目されていくことと推察します。

もちろん、大学入試のための授業を追求することだけが、我々の求めるところではないでしょう。しかし、「どのような『力』を生徒たちに身につけてもらいたいのか」という点に立脚した際に、大学入試の作問方針は視界から外すものではないはずです。それは各校における学習者の習得状況(いわゆる「学力」とも別の問題であるようにも思われます。可否を分かち「試験」としてでは

なく、生徒たちに、国語の学習を通じて獲得してほしい資質・能力習得状況の「めじるし」という意識をもって、授業構想に活かすことが大切なのではないでしょうか。

■試験問題の傾向

それでは大学入学共通テストの「言語文化」領域における、特徴的な問題を参照して考えてみます。

令和五年の実施回では、「古文」の領域において、源俊賴が著した『俊賴髓腦』が出題されました。またその設問の中では、同じ作者の別の文章(『散木奇歌集』)が提示され、授業で扱った生徒たちの「話し合い」の活動過程を表す文章とともに、受験者の思考力が問われてきています。同年出題の近現代の小説の設問でも、作中に登場する広告に関する【資料】が提示され、それをもとに生徒(Wさん)が書いた【構想メモ】と【文章】が登場してきます。

令和六年の実施回でも同様の傾向は続いています。近現代の小説でも牧田真有子の文章に対して、教師が示した【資料】と、それをもとにした生徒との対話が展開されます。「漢文」ではそもそも提示される本文が複数あり、それを関連させて読み取ることが問われています。

「言語文化」とは異なる領域ではありますが、大学入試センターが公表した、令和七年実施予定の大学入学共通テストの「試作問題」においても、複数の文章や資料が提示されており、受験者の思考力を問う設問が散見されます。非連続型テキストを結びつけて、ある観点をともにターゲットテキスト(試験問題でいうところの「本文」)を考え、読み解く経験値が重要になります。

■授業の構想方針

学習指導要領に示される「言語文化」の学習活動においては、その活動例として「B読むこと」(2)アでは「我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動」とあります。また(2)ウでも「異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動」とあります。

そこで本稿では、『新編 言語文化』(言文706)の掲載

教材を読み比べ、互いに意見を述べ合う活動(もしくは教材を読んだの意見を論じた文章を読み合う活動)を通じて、本文を読み深める授業を構想しました。そして前述の共通テストで示されるような【資料】として、「生徒の成果物」も使用したいと考えています。つまり、生徒の作成した意見文をターゲットテキストに対しての【資料】と位置付けて学習を進める方法です。

■「言語文化の窓」の活用

では、生徒たちは教材(もしくは複数の教材)の、何のような観点で読み比べ、その考えを構築すればよいのでしょうか。もちろん、先生方が独自にオリジナルな【資料】をご用意いただいて構わないと思います。時代を問わず、あらゆるテキスト、図、写真など、無限に資料は想定できます。しかし『新編 言語文化』では、その観点提示に活用できる部分が数多くあります。その中でもここでは、「言語文化の窓」を例に授業案を展開してみます。

「言語文化の窓」は作品の周辺知識や作者の情報など、言語文化に対して興味や関心を高める内容がまとめられているコンテンツです。ここではその中でも教材や作家について語られる「コラム」に着目します。村上春樹や

現代でも共通する（または共通しない）感覚であることを考えても面白いかもしれません。

■教材の掛け合わせ②

『羅生門』×『今昔物語集』×村上春樹「芥川の才筆」

【授業展開（案）】

まず芥川龍之介の『羅生門』を通読します。その上で『今昔物語集』の「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」を読み、その内容の違いや、読んでみての感想をもちます。

村上春樹の芥川龍之介に関するコラムにおいては、「浮世離れした説話世界を、現代の生活圏に、何の留保もなくすらしと持ち込んでくる鮮やかな筆力」とあります。『今昔物語集』の内容を芥川龍之介が『羅生門』の中で、「どのような現代感覚として浮かび上がらせたか」などの観点を示して話し合う活動をするのはいかがでしょうか。参考図書として『宇治拾遺物語「絵仏師良秀」と『地獄変』の読み比べから、同テーマで掘り下げ、読書感想文を書くなどの活動に発展させることも考えられます。

「言語文化の窓」の活用ということで言いますと、樋口一葉の『たけくらべ』と川上未映子による現代語訳を読み比べ、その文体の違いについて考える授業なども構



▲「新編 言語文化」(言文706) pp.98-99「言語文化の窓」(芥川龍之介と「羅生門」)

小川洋子といった名高い作家の視点が語られています。そのコラム自体の面白さと合わせて、作品や作家に対して鋭い気づきを与えてくれるものとなっています。これらの視点をもとに教材と向き合うことで、読みをより豊かに読み深めることができるのではないのでしょうか。

■教材の掛け合わせ①

『枕草子』×小川洋子「人気エッセイスト、清少納言」

【授業展開（案）】

まずは『枕草子』の教科書採録作品の「うつくしきもの」を読解し、類聚的章段の特徴や、清少納言独特の文体などを味わいます。その上で、「にくきもの」を読解し、清少納言が考える「にくし」の捉え方について生徒同士で話し合い、テーマに対する考えをもちます。

ここで小川洋子のコラムを読み、その「人間観察の辛辣さ」という部分に焦点を当てて、同じ文章を再読します。その上で清少納言の人間の捉え方について意見文を書く活動をして、その意見文を読み比べるという活動はいかがでしょうか。ここでは「にくきもの」のみを取り上げますが、他の章段を参照しても充実した活動になると思います。

授業の最後には、その終末で語られる「現代文と古文の違いさえ気にならなくなり」という部分に注目して、

想できます。このように教科書のそこかしこに、教材に対して観点をもたらす【資料】が配置されています。それらをうまく組み合わせることによって、多様な授業が生み出せそうです。いずれにしても生徒同士で交わされる話し合いや、文章を通じての意見形成が、重要な資質・能力育成につながるのではないのでしょうか。

■おわりに

冒頭でも述べたことではありますが、新課程の入試というものは「めじるし」になるものです。昨今の推薦入試でもディスカッションやプレゼンテーションの力が問われることが多く、そのような活動を支える資質・能力の育成という意味でも、教材の読み取りだけに終始しない展開は望ましいと言えます。

また、学習者が自身の意見をさまざまな観点で形成していくためには、「現代の国語」における「話すこと」や「話し合うこと」の指導事項を踏まえておく必要があります。おそらくほとんどの高校で「現代の国語」と「言語文化」の授業を同時に展開していると思われるが、有機的にそれぞれの授業を結びつけて（目的とする資質・能力を結びつけて）指導していくことが大切だと考えます。

古典をプロデュースしてみんとてするなり

やすおかみつはる
安岡充令

読み比べで繋ぐ古典の授業

■はじめに

現代文と古典の読み比べは、古典教材への導入としてだけでなく、作品や時代の比較を通して、その特徴を明確化する。また、「古典探究」では古典から現代に繋がる日本文化の有り様を示す役割も担っている。

大学入試における「現古融合問題」は、内容的な共通点を持つ現代文と古典を取り上げたものが多く、両者がお互いの読解を助けることもある。その対策は、現古それぞれの読解力の向上と、融合問題への慣れを説くものが多く、特別な訓練を求めることはあまりない。しかしながら、「慣れ」方にも工夫は必要だろう。

「現古融合問題」を置く意図を想像するならば、読み比べの過程において、現代を生きる高校生に時代を俯瞰した視座で考えを深めてほしいからこそ設置なのだろうとも思われる。

本稿では視座やテーマで繋げた複数単元を扱った「古

典」の授業案を提示する。具体的には、「精選 古典探究」(古探708)を用いて、安倍晴明を扱った説話、小説、漫画の読み比べと、林望「日記と日本人」と日記作品の読み比べである。作品、ジャンル、時代の比較を通して、普遍性や現代性を意識した読解から考察に至る過程を持つ授業を例示したい。

■【読み比べ1】描かれた安倍晴明の多様性

(ア) 授業の目的

本教材ではグループワークでの作業や他者との対話を通して、「史実」として伝わる晴明や、作品ごとの晴明の描かれ方の違いに気づくことが第一の目的である。

第二の目的は、多様な晴明像の背景にある書き手や作品ジャンル、時代について考えを巡らすことにある。生徒の中には現代のメディアを通して晴明を知っている者もいるかもしれない。今回扱った作品も含めて、それぞ

れに描かれる晴明像が違うことに疑問を持つだろう。様々な晴明像が「創られている」ことの疑問を通して、各時代が求める「理想像」にも気付くかもしれない。

なお、今回は説話、小説、漫画を比較したが、他にも説経節「信太妻」、歌舞伎「蘆屋道満大内鑑」、映画「陰陽師」がある。アニメやゲームの登場人物としては枚挙にいとまがなく、こうしたものとの比較も面白い。晴明像の変遷を論じた、田中貴子『安倍晴明の一千年』(法蔵館文庫、二〇二三)を参考文献として挙げておく。

(イ) 授業展開 (紙幅の都合上、基本的な作業は省略、以下同)

- ① 台詞や動作に注目しながら、メディアによる描かれ方の違いとその理由について考察する。
- ② 異なる晴明像が創られる理由についてまとめる。

■【読み比べ2】日記の持つ記録性と文学性

(ア) 授業の目的

「日記と日本人」は、筆者の主張をつかむことが一つの目的だが、研究者でもある筆者の視座を借りて、「探究」的に古典を読む導入としての機能も有している。

筆者は、「日々の記録」を目的とした男性の日記とは違って、女性の日記は「虚構としての文学意識」を持つ

と述べる。女性の日記に描かれる日常には、事実を踏まえた演出が施され、単なる記録ではない、自己実現や自己表現を試みた「文学性」を見いだすことができる。このことに着目しながら、日記作品を改めて読み直すのが第二の目的である。

特に「羽根」における亡き子への心情を「父」ではなく、「女房」として語るのはなぜか。紀貫之が第三者の語り手を生み出した心情や意図について考えてほしい。

(イ) 授業展開

- ① 「日記と日本人」の主張をつかむ。
 - ・ 文体的特徴…漢文訓読体、女性の文体
 - ・ 内容的特徴…文学性、記録性
- ② 「土佐日記」冒頭や「羽根」から、作品の持つ虚構性やその意図について考える。
 - ・ 作者と語り手(視点人物)の関係性
 - ・ 語り手の意図、虚構性がもたらす効果

■『枕草子』における描くものの取捨選択

(ア) 授業の目的

『枕草子』は随筆に位置づけられるが、日記(回想)

「宮にはじめて……」の文中では、中宮定子の輝くばかりの美しさと優れた才能を讃えている。しかしながら、「枕草子」が成立した頃には、定子は後ろ盾を失い、時勢は彰子へと流れていた。この「史実」は、定子の側近想にいた清少納言も実感していたはずだが、定子の「理想的なイメージ」には不要として描かれなかった。

描くものの取捨選択もまた文学上の「演出」とする見方が、近年は少なくなない。こうして選りすぐられた『枕草子』は千年の時を超えて読み継がれている。作品を通して理想の定子像を「創り出した」清少納言は、優れたプロデューサーと言えるかもしれない。

① 次の項目から虚構性について考える。

② 必要に応じて、各自の考えを発表する。

が見られそうである。参考までに生徒記入例（図1）を挙げる。

どちらのワークも、人物に潜む新たな魅力を引き出すという過程を通して、普遍的な創作の有り様を追体験してもらうことに主眼がある。SNSを通して、自分をどう見せるのかに腐心する若者にとっては、「プロデュース」は日常的なテーマでもあるだろう。高校生の面目躍如となるかもしれない。

先行作品に素材やひな形を求めながら、新たな作品を生み出すことの繰り返しによって、文化はその層を厚くしてきた。「現古融合」も、現代と古代を比べるだけでなく、積み重なった文化の厚みを実感し、人の普遍的な営みを学ぶ、そんな面白さを知る機会となるだろう。

今回の授業案では作品を読み比べるだけでなく、「プロデュース」という視点を取り入れることで、作品の位相がよりくつきりと読み取れるよう試みた。古典の沃野に分け入るには、それなりの切り口や視座が必要となるが、その「切り口」を試行錯誤してみるのも面白いと思う。「古典探究」は始まったばかりである。様々な試みが古典教育の層の一つに繋がることを願ってやまない。

一つ目は「古典文学《推しキャラ》グランプリ」という活動である。現在では地域振興などの名目で、郷土に縁のあるキャラクターが生み出され続けている。

そこで古典文学の中から、晴明や定子のような、自分が人に紹介したくなるような人物《推しキャラ》を一人選んで紹介し合う活動である。ここでは清少納言が定子の素晴らしさを説く姿勢を参考に、人物の持つ個性を分析し、その特徴を魅力として創出し、プロデュースしようというものである。

二つ目は、「私の空想旅日記」である。これは「土佐日記」の描き方を参考に、自分を旅人になぞらえて、「門出」の場面を書いてもらおうというものである。

自分がどんな人物で、どんな状況で、どこへ、なぜ旅立つのか。旅先一つとっても個性が生まれ、作中で自分をいかにセルフプロデュースして描くのか、様々な工夫

「古典」課題
「私の空想旅日記」

2年「」組「」番
氏名「」

★自分が行ってみたい1處所の旅行計画を立てて下さい。

一、旅先の紹介
北海道の小幌駅。いわゆる秘境駅。鉄道オタクしか訪れないのでは？というところ。

二、旅先の画像（探して貼る）

三、旅先を選んだ理由を説明せよ。
兄が鉄道に乗るのが好きで、一度その旅に着いて行っていたことがある。日常で見ない風景に溢れていて楽しかった。今の兄は一人旅をしているが日曜日か一泊自分は許されていない。兄が羨ましいので、空想で行ってみたい。行ったことがない人、まずまず存在を知らない人の多い秘境を全身で感じたい。

四、私版「O日記」冒頭文
君はこれから旅立とうとする旅人です。
今、旅のはじまり、「門出」の場面を日記文風に書くことになりました。

★君はどんな人で、どんな状況で、なぜ旅立つのか、そんな事が分かる様子をここに★でネット上にあるものは押さず書こう
まだ僕も書けない、新刊がほしい
文章を目指す。【評語】三箇点全て

①タイトル ※旅先を入れてね！
小幌駅 日記

②冒頭文
午前五時、もう外は十分明るかった。人々生活動を始めている。
ガクガクと、大次郎ユウサクツの音に抱え、日陰でたてて目を閉じて。
数秒間のあの日と思い出す。一種達成、同じで収まるらしいのを感じていない。内面で兄に話していた。まー一瞬にすぎないわ笑ったが兄に話して付いている。
電車に特別な意味はない。ただの移動手段、目を輝かせる瞬間を目撃しているだけだ。
君は今何をしようとするの？一人て秘境駅に訪れたら考えられるように行動。
まだいっつも前立って、私の手を引いて歩いて、遠くに行ってしまった兄の気配を求めて、私は一人てこの世に飛び出すのだ。
ガク、ゴト、息を吐き、目を閉じ、覚悟は決まっていた。





45 古典をプロデュースしてみんとてするなり

令和
7
年度用

大修館書店

国語教科書のご案内

特設サイトは
こちら



● 1年生 必修(2単位) ●

● 2・3年生 選択(4単位) ●

実社会を生き抜くための
言葉の力を育む



現代の国語

②



新編 現代の国語

③



論理国語

⑥



新編 論理国語

⑦

新編シリーズ



国語表現

⑩

時代と空間を越えた
言葉と文化の豊かさを知る



言語文化

④



新編 言語文化

⑤



文学国語

⑧



新編 文学国語

⑨

「新編 文学国語」
には古典もあり



古典探究 古文編・漢文編

⑬



精選 古典探究

⑪

いずれかを選択

詳細な単元指導計画表、
豊富な生徒成果物などで
授業のイメージがつかめます！

- 【主要目次】
- 総論 思考ツールを活かした〈比べ読み〉の意義と方法
- 1 新聞投書を読み比べて自分の意見を持つ 投書×投書
 - 2 評論文と法令文を関連付けて解釈を深める 評論×法令
 - 3 資料の比較を通して「判断」の過程に自覚的になる 事例×事例
 - 4 同一作者の作品を読み比べて特徴と魅力を見つめる 小説×小説
 - 5 英語俳句から五・七・五の日本語表現を吟味する 英語俳句×翻訳
 - 6 評論文を「道具」として広告を比較する 評論×広告
 - 7 評論文を読み比べて批判的に考える 評論×評論
 - 8 文学理論を扱って近代小説の「語り」を批評する 評論×小説
 - 9 古典文学と翻案アニメーションを比べて解釈を深める 古典×映画
 - 10 古典と近現代の文学作品を重ねて読み「主題」という概念を捉える 古典×小説
- 付録 思考ツール一覧

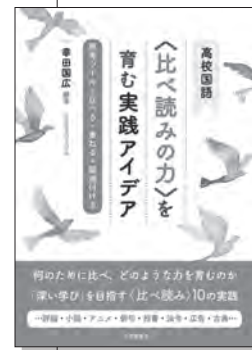
高校国語〈比べ読みの力〉を育む実践アイデア

幸田国広 編著
新刊紹介

思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける

この一冊でわかる！〈比べ読み〉の学習指導

何のために比べ、どのような力を育むのかを明確にした〈比べ読み〉の授業一〇例を紹介。多様な観点を教材とともに、〈思考ツール〉を用いた活動を提示する。〈比べ読み〉の授業づくりに必携の一冊！



●B5判・160頁
●定価2,420円(税込)

「他者に共感する力」「論理的に考える力」
「言葉で伝え合う力」を高める

新編 現代の国語

現国707 B5判 238ページ



コミュニケーションは技術だ。
やり方次第でどんどん上達するのだ。

B5判



新編
現代の国語

大塚書店

特色
4

大判ならではの、見やすく
わかりやすいレイアウト
「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材
は上段に学習活動、下段にポイント欄を配
置。学習活動の流れがわかりやすい紙面を
実現しました。図表や写真の可視性もアッ
プ!

特色
3

新鮮かつバラエティー豊かな
読み物が盛りだくさん
論理的な思考力を育む議論、関心や意欲を
高めるエッセイ、料理レシピやアニメ
ーション映画の企画書などの実用的な文章と
いった、多様な教材を用意しています。

特色
2

基礎から発展へ、
一歩ずつステップアップ
教科書全体をとおして、学習段階を考慮し
ながら構成しました。国語の力を着実に身
につけていくことができます。

特色
1

三つの領域を
バランスよく配置
言葉に関する知識・技能と「話すこと・聞
くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域
の力を育む教材を、学習のねらいに応じて
10の単元に分けて構成しました。

グローバル社会に通用する実践的な
「話す・聞く」「書く」「読む」力を育む

現代の国語

現国706 A5判 286ページ

豊富な読み教材で、

評論文 15本

導入・参考ほか 9本

実用的な表現 10本

統計資料 14本

しっかりインプット!



現代の国語

大塚書店

特色
4

主體的・協働的な学びを
サポートする充実の資料編
生徒が主體的に学ぶために役立つ「豊かな
言語活動のために」「キーワード解説」「情
報の集め方」など、付録・資料も充実して
います。

特色
3

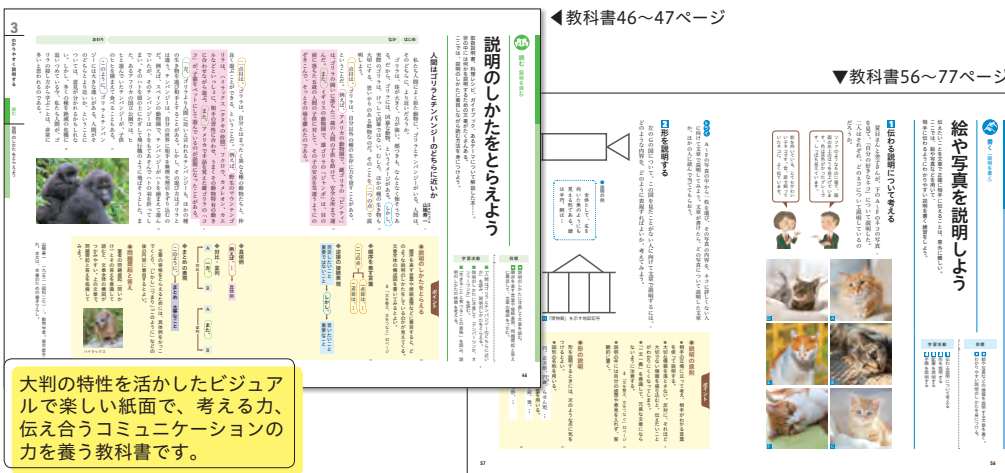
実社会・実生活で
役立つ力を育む
企画書・プレゼンテーションなど、実社会
実生活で必要とされる活動を豊富に設定
規約や広告など、実社会で用いられる表現
に親しむコーナー「社会への視点」も設け
ました。

特色
2

新傾向の大学入試に対応した
教材を多数収録
統計資料や図版の解釈、複数の文章や資料
の比較読みなど、新たな学力に対応した教
材を多数収録しました。

特色
1

3領域の学習を徹底サポート
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読む
こと」の学習目標・手順を明確化。「ウォー
ムアップ・ワーク」を設置し、何を、なぜ、
どのように学ぶかが見えるようにしました。



教科書46～47ページ

教科書56～77ページ

大判の特性を活かしたビジュアル
で楽しい紙面で、考える力、
伝え合うコミュニケーションの
力を養う教科書です。



教科書115ページ

教科書42ページ

教科書176～177ページ

身につけた力を意識した構成
で、見通しをもちながら学習が
進められる、現代社会に必要な
実践力を鍛える教科書です。

新鮮な教材で言語文化への興味をかき立て、
ことばの旅へといざなう

新編 言語文化

言文706 | B5判 | 312ページ



B5判



特色 4

大判だからできた、
見やすく楽しい紙面
大判の特長を生かして、読みやすくわかりやすい紙面デザインを実現。生徒の好奇心を刺激する写真やイラストを多数盛り込み、眺めるだけでも楽しめる教科書に仕上げました。

特色 3

授業で使える！
古文編・漢文編の工夫
教材本文では、見開き単位を意識した紙面構成をし、使いやすいレイアウトを追求しました。古文の助動詞や漢文の訓読など、つまずきやすいポイントについても、わかりやすく徹底的に解説しています。

特色 2

日本の「言語文化」を
実感できる「言語文化の窓」
「言語文化の窓」を、各単元末に設置。受け継がれてきた言葉や文化についての解説、著名人による古典作品の紹介など、興味・関心をかき立てるビジュアルなページです。

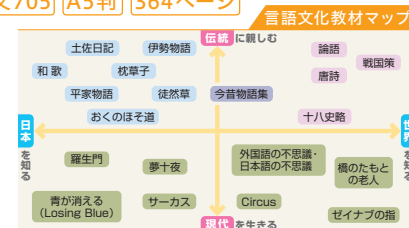
特色 1

新鮮で魅力的な教材群
言葉の価値や文化のつながりなど、重要なテーマに触れられる新教材が満載！小説は、定番の「羅生門」を始め、夏目漱石から村上春樹まで、近現代の名作を網羅しました。

多彩な教材を揃えた、
新しい国語のスタンダード

言語文化

言文705 | A5判 | 364ページ



タテとヨコ。
ふたつの軸で、言葉と
文化を探究する。



特色 5

図録・資料の充実
巻頭・巻末の図録では、世界と日本の言葉や日本の伝統芸能の演目を幅広く紹介。豊富な資料図版で理解を助けます。

特色 4

多彩なコラム
作品を読み解くための技能をおさえる「解釈の視点」、豊かに言語文化の知識を育む「言語文化の窓」に加え、言葉に関する豆知識「言葉のタネ」を設置しました。

特色 3

新傾向の大学入試にも対応
和歌と鑑賞文、古文と漢文の比較読みなど、新しい大学入試にも対応する教材を豊富に収録。新傾向の入試対策も万全です。

特色 2

自ら調べ、自ら深める「探究」
言語文化に関するテーマについて、生徒が自分で調べ、考えを深めるコーナー「探究」を設置。多彩な資料をもとに、探究的な学習を実践することができます。

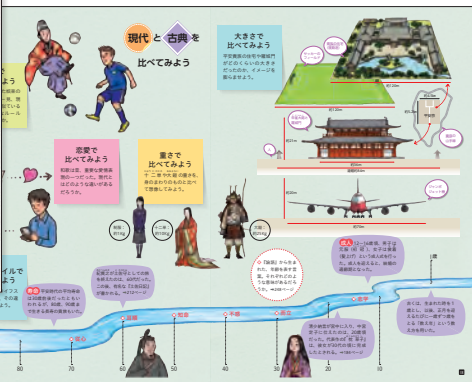
特色 1

タテとヨコの言語文化
ことばと文化の歴史的な連なりを考える「タテ」の言語文化と、さまざまな地域・国とのつながりを考える「ヨコ」の言語文化。古文・漢文はもちろん、小説の名作や翻訳の文章も掲載。広い視野で学べる教科書です。



教科書口絵

教科書後見返し



教科書後見返し

教科書口絵



「世界の言葉」や「日本の伝統文化」など、図版も豊富に収録。古典と現代、日本と世界を見わたす教科書です。

とらえる。整理する。解決する。
社会で役立つ「生きた論理の力」を育む

新編 論理国語

論国706 A5判 330ページ

「読む」も



「書く」も

楽しみながら、考える力を組み立てる。



特色 4

楽しく役立つコラム・資料
論理の小ネタを紹介する「論理の窓」のほか、巻末資料では思考ツール、情報収集のコツ、引用の方法など、豊富な資料類をご用意。論理を活用し、自ら考える力を育みます。

特色 3

新傾向の大学入試への対応
統計資料の読み取り、複数の文章の比べ読みなど、新しい大学入試にも対応できる教材を豊富に収録。新傾向の入試対策も万全です。

特色 2

「書くこと」の学び
「書くこと」の単元を四つご用意。段階的に配置された「ワーク」で、着実に「書く」力を身につけることができます。小論文・レポートはもちろん、志望理由書や自己推薦書の書き方も徹底サポート！

特色 1

基礎から発展へステップアップ！
教科書全体を通して、学習段階を考慮し、一歩ずつ成長できる構成に。ウォームアップで楽しい準備体操、ごく短い文章教材「例題」で読解の練習、単元末の設問コーナー「フォーカス」で論理の力を固めます。

「読むこと」と「書くこと」を往還し、
強靱な思考力・判断力・表現力を養う

論理国語

論国705 A5判 438ページ



「問い」「読む」「書く」の反復で 確かな国語の力を育む。



特色 4

学びを深める充実の資料
教材の読みを深める「キーワード解説」、教材間を横断して知識をつなげる「キーワード索引」「人名索引」、論理的思考を深め、表現活動をサポートする「知の道楽箱」など、教材以外の資料も充実しています。

特色 3

新傾向の大学入試への対応
「学習のポイント」に、筆者の主張を吟味・検討したり、複数の資料を比較したりする設問「考察・発展」を設置。日々の学習に取り組み中で、新傾向の入試にも対応できます。

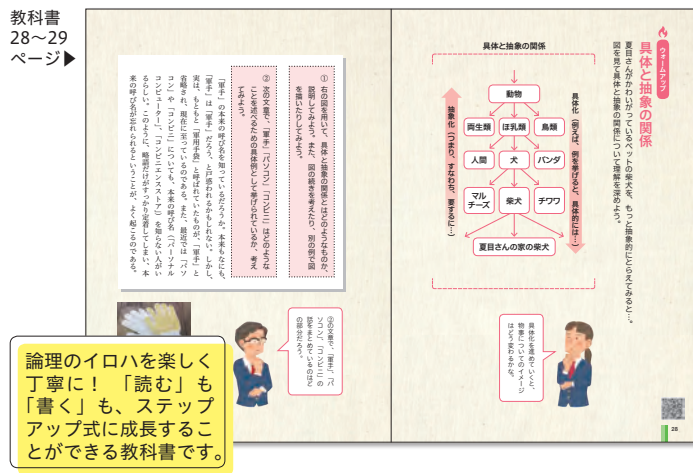
特色 2

自己の世界を広げる多様な教材
各単元に、現代を考える上で押さえておきたい、多様なテーマの教材を複数配置。読み比べることで、多角的な視野を養えるようにしました。さらに単元末には、古今東西の名著を引用付きで紹介した「テーマと読書」を設置。さらなる探究に誘います。

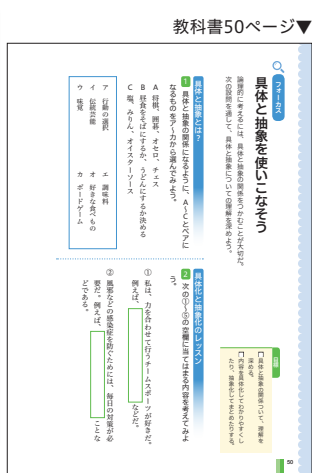
特色 1

「問い」「読む」「書く」とおして確かな力を
各単元に、教材と関連した「問い」を設置。目的をもって、「読む」教材と向き合えるようにしました。さらに単元末の「書く」活動に取り組み、読む教材で学んだことを、自己の表現にもつなげます。

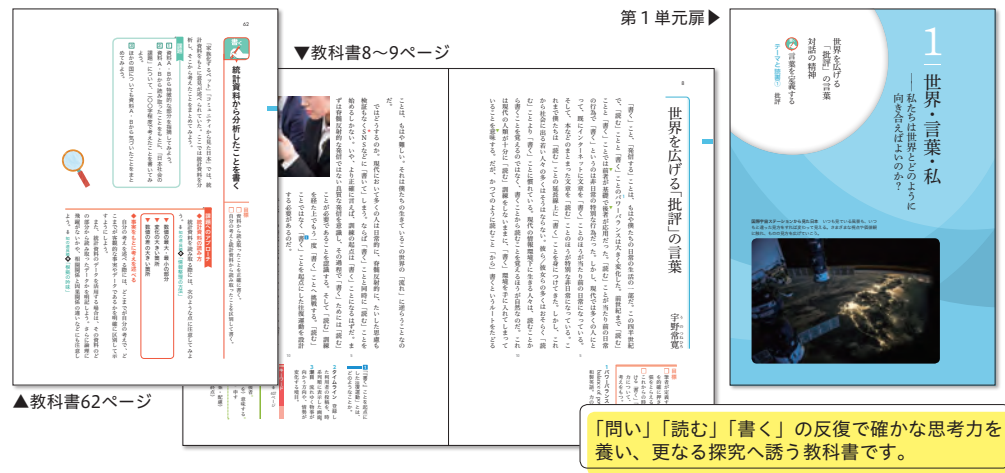
教科書 28～29 ページ▶



教科書50ページ▶



第1単元扉▶



「問い」「読む」「書く」の反復で確かな思考力を養い、更なる探究へ誘う教科書です。

評論も、古典も、書く力も。
文学のすべてを、この一冊で。

新編 文学国語

文国705 A5判 398ページ



特色 4

学びを支えるブックデザイン
読みやすい本文書体、美しい挿画等の見た目はもちろん、行の数えやすさ、読みの流れを妨げないページめくりなど細部にまで気を配ったデザインで学びのバリアフリーを目指しました。

特色 3

特集とコラムで文学がわかる
巻頭の「文学の扉を開こう」で文学の読み方を具体的に解説。コラム「ことのは」や「文学の窓」も併せて、文学を読み、楽しみ、深く味わう力が身につきます。

特色 2

評論も、古典も、書く力も
小説だけでなく、随想・評論も12本収録。古典の名作をコンパクトに味わえる「古典の世界」、楽しみながら創作に取り組み「書くこと」など、文学のすべてを一冊に盛り込みました。

特色 1

心に響く近現代の文学作品
近代の名作から現代の新鮮な作品まで、長短合わせて16本の小説作品を厳選。さまざまな組み合わせ方ができるように、1学期に1本以上の定番教材を置きました。

生きた文学史が一望できる！

文学国語

文国704 A5判 454ページ



特色 5

興味が広がる付録・資料
読むとき、書くときに役立つ「文学に生きる言葉」や、「日本近代文学の作家たち」「世界文学地図」などの付録・資料を収録しました。

特色 4

知識が広がり、読解が深まる多彩なコラム
文学のさまざまな知識が身につく「文学の扉」「小説の語り手」「比喩と象徴」などのコラムを豊富に読むための視点を紹介する「文学を読むために」を設置しました。

特色 3

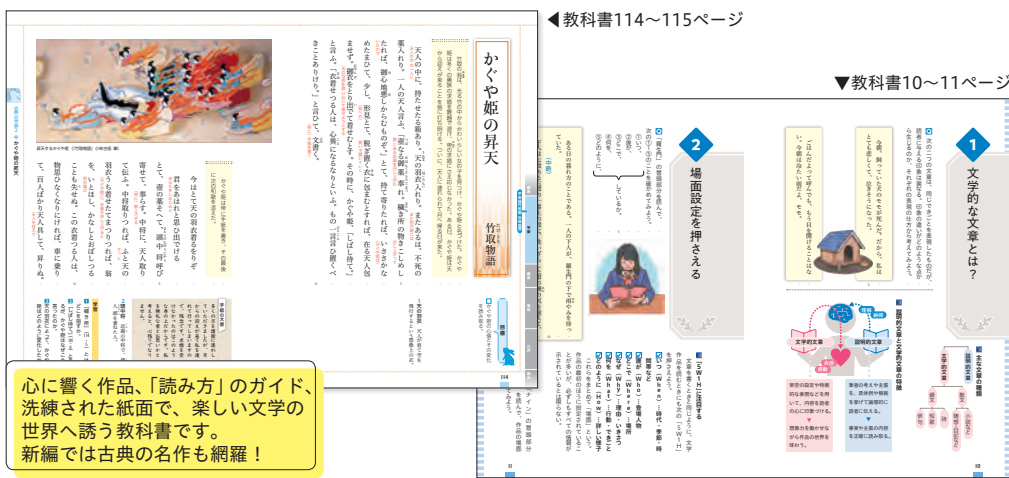
心を動かす表現力が身につく
書く活動に無理なく取り組めるようにしました。

特色 2

解釈・考えが深まる「展開」探究
教材と比べて読み、多様な解釈の可能性を知ることができる「展開」自ら調べたり考えたりするための「探究」を設置しました。

特色 1

文学を読む楽しみが広がる教材群
「山月記」「こころ」「舞姫」などの定番教材から最新の作品まで、多様な時代や国の作品を満載。文学・文化・言語を考えるきっかけとなる随想・評論・戯曲も計13本収録しました。



充実した教材で、
古典を楽しく、主体的に学ぶ

精選 古典探究

古探708 A5判 406ページ

古文 71 本

漢文 59 本

現代文 9 本

コラム 38 本

付録 54p

古文、漢文ともに
充実の教材数！

古典の世界が一目でわかる



特色 5

面期的な付録が充実
漢文付録の「諸子百家関係図」や「詩文関係図」など、これまでにない資料を数多く掲載しました。

特色 4

理解をうながす多彩な図版
言葉では説明が難しい地理や人間関係などが一目でわかる図解資料や、作品の読解に資する美術作品を多数掲載。

特色 3

高校生の疑問に答えるコラム
「古文の窓」「漢文の窓」に加え、高校生の素朴な疑問に答え、興味を引き出すコラム「豆知識」を設置。読解に役立つ知識のほか、読書案内も盛り込みました。

特色 2

探究学習に
取り組みやすい構成
「探究学習」を授業に取り入れやすくするための、探究課題を設置。また、読書案内やコラムでも、自主学習へのきっかけとなる話題を多数紹介しています。

特色 1

入試を見据えた読み比べ教材
教材の読解を深める「読み比べ」（読み比べ教材）「視点」（鑑賞文等）を設置。近現代の文章を読んで課題に取り組み共通テストなどの新傾向入試にも対応できます。

授業でも実社会でも「使える」教科書、
さらにアップデート

国語表現

国表701 B5判 250ページ 2部構成

で使いやすい

問題数……→200問以上!!

実践的な問題を解きながら
学習を進められます。

読み物教材……→43本!!

生徒に読んでほしい、考えてほしい
テーマの文章を集めました。

使えるグラフ……→15本!!

小論文やプレゼンの
題材に!

B5判

国語表現



特色 5

メディアの活用方法を伝授
手紙や電話はもちろん、電子メールの使い方からSNSのマネー、インターネットによる情報収集まで。ネット社会を生きる生徒に伝えたい、正しいメディアとの付き合い方を伝授します。

特色 4

実社会で役立つ
自分PRの方法を指南
志望理由書や自己推薦書の書き方から、面接のコツやグループディスカッションの練習まで、進路に向けたあらゆる場面で役立つ自己表現の方法すべてを、この一冊にまとめました。

特色 3

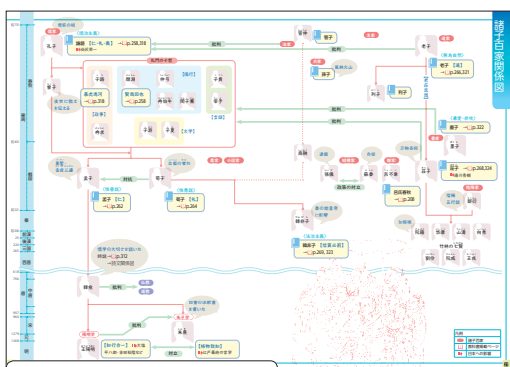
小論文の書き方完全マスター
小論文の書き方を基本から丁寧に解説。このステップなら誰でも小論文が書ける! さらに、課題文型・データ型・テーマ型など、多様な形式の小論文対策を網羅しました。

特色 2

楽しく言葉の基本を学ぶ
教科書全体をとおして、クイズ形式などの問題を解きながら言葉の基本や言語活動の基礎を学べる工夫をしました。教科書のステップに沿って学習を進めていくことで、実社会で「使える」国語力が着実に身につきます。

特色 1

表現力を培い、表現を楽しむ
姿勢を育む2部構成
書く力、話す・聞く力、言語運用力、情報活用力。言葉の自由自在に駆使し、生き生きと表現する。そんな力を育むために、第1部「表現力を培う」第2部「表現を楽しむ」の2部構成としました。



▲教科書後見返し

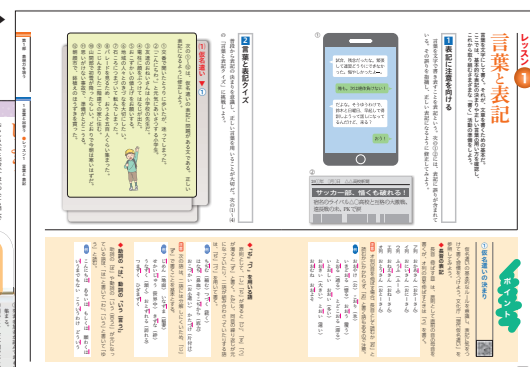
▼教科書366ページ



▲教科書55ページ

教科書12~13ページ▶

▼教科書176~177ページ



コミュニケーションの基礎となる言葉の
使い方を学び、さまざまな場面で活用
する。生きた表現力を培う教科書です。

豊富な教材と資料で、
古典を楽しく、主体的に学ぶ

古典探究 漢文編

古探707 A5判 204ページ

定番教材を網羅したほか、生徒の興味関心を引き出す教材を多数掲載。

漢文 76 本

古文+現代文 10本

コラム 18 本

付録 20p

難しく感じてしまいがちな漢文に
興味を持てる、疑問を解決する
コラムや資料がたくさん！



豊富な教材と資料で、
古典を楽しく、主体的に学ぶ

古典探究 古文編

古探706 A5判 294ページ

定番教材を網羅したほか、生徒の興味関心を引き出す教材を多数掲載。

古文 84 本

漢文+現代文 6本

コラム 26 本

付録 36p

漢文や現代文の教材も掲載！
日本古典とのつながりを
実感できます。



特色

つなかりを把握して
漢文に親しむ

細かな章段で学ぶ思想教材、一つ一つ独立した漢詩は、登場人物や作者の関係がわからずらいもの。そこで、人物の関係や時代の流れが一目でわかる曲期的な関係図を掲載。また、中国古典の日本文化への影響をわかりやすく紹介した「漢文と日本文化も掲載しました。

特色

高校生の疑問に答えるコラム

特色

取り組みやすい構成

特色

漢文の理解を深める
読み比べ教材

教材の読解を深める「読み比べ」(読み比べ教材)【視点】(鑑賞文等)を設置。近現代の文章も複数収録しました。

複数の文章を読んで課題に取り組む共通テストなどの新傾向入試にも対応できます。

特色

言葉では説明が難しい人物関係や地理が一目でわかる図解資料や、作品の読解に資する美術作品などを多数掲載。

特色

高校生の疑問に答えるコラム

「古文の窓」に加え、高校生の素朴な疑問に答え、興味を引き出すコラム「豆知識」を設置。読解に役立つ知識のほか、読書案内も盛り込みました。

特色

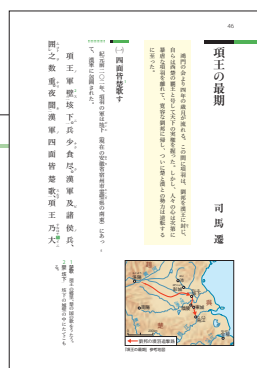
「探究学習」を授業に取り入れやすくするための、探究課題を設置。また、巻頭には探究の手立てを示した「**古典を探究**」を設け、自主学習にも取り組みやすい構成にしました。

特色

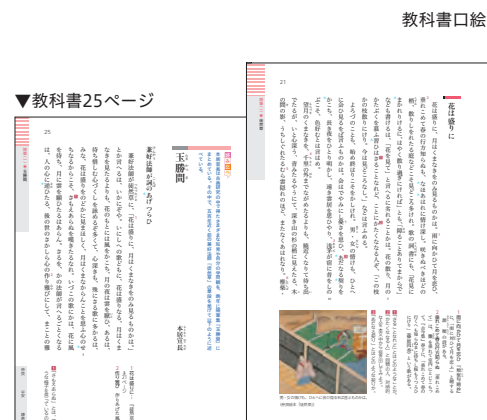
入試を見据えた読み比べ教材
教材の読解を深める「読み比べ」(読み比べ教材)「視点」(鑑賞文等)を設置。近現代の文章も複数収録しました。
複数の文章を読んで課題に取り組み共通テストなどの新傾向入試にも対応できます。



▲教科書後見返し



▲教科書46ページ



▲教科書21ページ



探究活動にも役立つ図解資料や、興味を引き出す教材が充実。古文に親しむための仕掛けが詰まった教科書です。

「教師用指導書+デジタル教科書セット」のご案内

大修館教科書での授業を万全にサポート。

「教師用指導書」「付属DVD-ROM」「指導者用デジタル教科書」をセットでご用意。必修科目は「教師用教科書」「朱書」を含む4点セットです。

教師用指導書

「こう授業すればよい」が一目でわかる！
丁寧な学習指導案を、必要に応じて複数パターン提示。

学習指導案「文章の要点をつかむ」

単元	単元目標	学習活動
1	「ウォームアップ」を読み、山と海、村と山について興味をもつ。 「大冒険」に対して「サボテン」「知恵」「マラソン」「家」がそれぞれあることを知る。 「大冒険」のあらましを把握する。	1. 「ウォームアップ」を読み、山と海、村と山について興味をもつ。 2. 「大冒険」に対して「サボテン」「知恵」「マラソン」「家」がそれぞれあることを知る。 3. 「大冒険」のあらましを把握する。
2	「大冒険」のあらましを把握する。 「大冒険」のあらましを把握する。	1. 「大冒険」のあらましを把握する。 2. 「大冒険」のあらましを把握する。
3	「大冒険」のあらましを把握する。 「大冒険」のあらましを把握する。	1. 「大冒険」のあらましを把握する。 2. 「大冒険」のあらましを把握する。
4	「大冒険」のあらましを把握する。 「大冒険」のあらましを把握する。	1. 「大冒険」のあらましを把握する。 2. 「大冒険」のあらましを把握する。

* 紙面は必修科目をもとにしたサンプルです。

付属DVD-ROM

- ・原文データ
- ・現代語訳／品詞分解／
白文／書き下し文データ
- ・ワークシート
- ・板書例
- ・小テスト
- ・評価問題（標準・発展・実力）
- ・発問例全データ、語句・文法データ
- ・音声データ
- ・補助資料
- ・学習ノートデータ
- ・評価支援ツール
- ・大修館漢文エディタ オンライン など

小テスト

その時間の授業のまとめに。
基礎・基本を10分でチェックできる。

ワークシート

活動的な授業がサポートできる、
使いやすいワークシートが盛りだくさん。

教材配信サービスの案内

大修館クラウド

付属DVD収録のデータをダウンロードして
入手できる配信サービスをご用意しました。

評価問題

「発展」には大学入学共通テストに
対応した問題もご用意。

必修科目はこちらもご用意！
教師用教科書「朱書」

生徒の教科書と同じ体裁で、学習指導案、評価
の観点、設問の解答例などを朱記。別売可。

水の東西

山は崎嶇な山

水は清らかな水

山は崎嶇な山

水は清らかな水

「話すこと・聞くこと」の評価もばっちり！
具体的な観点別評価規準例を提示。

板書例を豊富に掲載！ ビジュアル
でわかりやすい紙面。

指導者用デジタル教科書「アプリ版/クラウド版」

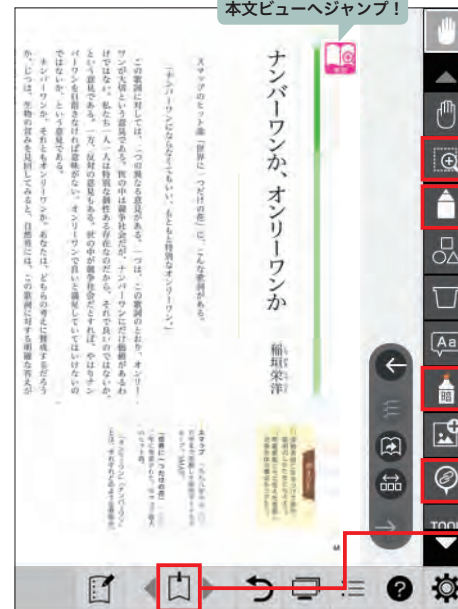
見てさわって使いやすいデジタル教科書を「アプリ版/クラウド版」も「用意しました」。

*1 必修科目には「指導者用デジタル教科書」を含まない、「教師用指導書セット」も「用意しています」。

*2 必修科目には、増補機能を充実させた「指導者用デジタル教科書（教材）」、「学習者用デジタル教科書+教材」を別売にて「用意しています」。

基本機能

- ▶紙面の拡大・縮小
選んだ範囲を拡大。学んでいる箇所により集中。
- ▶画面への書き込み
ペン機能のほか、線・図形、文字入力も。
- ▶授業履歴保存
直前までの状態をそのまま保存。校内での共有も。
- ▶暗記ペン
暗記したい部分を線で隠すことができます。
- ▶マイリンク
自作教材ファイルとのリンクができます。
- ▶超しおり
画面で書き込んだ内容を保存できます。



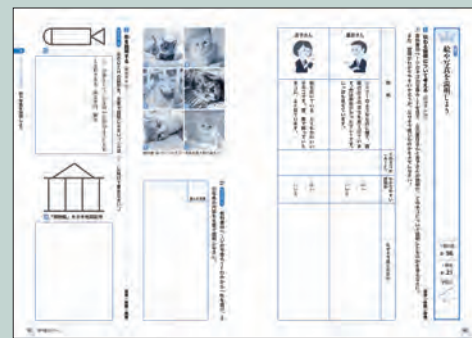
増補機能

教科書本文をリフロー表示し、フォントや文字サイズが変更できる「本文ビュー」、QRサイトにジャンプできる「QRリンク」、音声・動画データなど、さまざまな機能を盛り込みました。

▲多機能な「本文ビュー」で授業がスムーズに！

学習ノート「別売」

教科書に完全準拠。読解から表現活動・探究活動まで、予習・復習だけでなく授業でも活用できる生徒用ノート。「論理国語」履修者向けに小説教材を提供する「学習ノート小説編」も「用意」。



最新情報は
こちら



BOOK REVIEW



いま、高校生に読んでほしい本

「人間はね、一人で幸福になれる生き物ではないんだよ。」(p.35)

物語の主人公は雄町哲郎。三十年代後半の地域医療で働く内科医だ。エリート医師であったが、シングルマザーだった妹が亡くなり、一人残された甥の龍之介と慎ましい二人暮らしをしている。

本書の舞台は京都である。甚盤目状に整えられた街並みと複雑に入り組んだ路地が、まるで一筋縄でいかない人生の象徴のようだ。五山の送り火など夏から秋にかけての古都の風情が実に鮮やかに再現され、物語の持つ豊かな思索に深みを与えている。哲郎があの甘いもの好きを

古都の風情を背景に現役医師の著者が到達した揺るがぬ哲学！
人として生きていくうえで必要な究極の「学び」がここにある。

夏川草介『スピノザの診察室』（水鈴社、二〇二三年）

うちだ たけし
内田 剛

ブックジャーナリスト。約三〇年の書店員勤務を経て、二〇二〇年よりフリーに。NPO本屋大賞実行委員会理事。

ため、長五郎餅や阿闍梨餅、矢来餅など名産品が登場するのも読みどころのひとつ。柔らかな伝統の風味には、温かな人間味まで込められているのだ。

著者の夏川草介は、映画化もされてシリーズ累計330万部を超える大ベストセラーとなった『神様のカルテ』を世に送り出したことで知られているが、地元・長野で地域医療に携わる現役医師でもある。人気作家であると同時に、患者の喜びと悲しみを目の当たりにする命の現場の最前線に立っているのだ。本書から醸し出される圧倒的な説得力は、常に「生」と「死」を見つめ続ける、厳しい日々の地層から成り立っているのだ。

十七世紀オランダの哲学者の名前をタイトルに冠していることから明確なよ

うに、強いメッセージが驚くほど真っ直ぐに伝わってくる。哲郎の最大の関心事は「人の幸せはどこから来るのか」ということ。本当の幸福とは何かを問いかける格好のテキストであり、人生の真理を分かりやすく教えてくれるバイブルともなる一冊でもある。

人の命を預かる医者として何ができるのか。苛烈な運命を前にして無力な人間はどうすればいいのか。哲郎が最後に到達した境地は涙なしには語れない。夏川草介その人が実体験から掬い出した血の通った哲学なのである。多くの方に読まれるほどに、この世界の霧は晴れていく。人が人として生きていくために必要な「学び」がこの小説に凝縮されているのだ。

詩の教室へようこそ

和合亮一

第八回 自分だけの声と言葉を届けるために

福島県立福島北高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、Twitterで「詩の礫」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集「賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集「QQQ」で萩原朔太郎賞受賞。校歌、合唱曲作詞多数。

＊朗読との出会い

今回は、朗読の面白さについてお話をさせていただきます。

詩を書くことと朗読とは、大体同じ頃に始めました。

学生時代から演劇をやってきましたから、言葉や声に関することについてあまり抵抗はないほうでした。でも、本当の面白さに気づくのは、始めてからずいぶんと時間が経ったように思います。たどりつくまでには数々の失敗も経験してまいりました。

気がつけば三〇年ほど朗読の活動を続けてきたことになります。このように書いていて、あらためて驚かされます。アナウンサーでもないし、プロの俳優でもない。

自分なりの読み方であればいいということに気づいたとき、初めて肩の力が抜けて楽しむことができるようになった気がいたします。授業で生徒たちに朗読をする時間を大切に行っているのも、朗読の魅力をきちんと伝えたいという気持ちからです。

最初の経験は、ある美術館の企画展の展示室でした。二〇代の初め頃のことです。ありがたくも、展示された絵の前で朗読をする機会をいただきました。その日は曜日の昼下がりということで、お客さんもたくさん入場していました。朗読の開始時間にはきちんと館内アナウンスが入り、しだいに人が集まってきました。ガチガチに緊張している私がいまいた。目の前の原稿から顔を上げられないくらいになりながら、自作詩の朗読を終えて見渡してみると、集

まってくれたり足を止めてくれたりしたお客さんのほとんどは、別のフロアへと消えてしまいました。

真っ青になりました。

ここで初めて、朗読の本当の難しさに直面したのです。それは、先に述べたように「自分なりの読み方」に全く気づいていないことによるものだと、ずいぶん後になって冷静に理解するに至ったのでした。このときは、すぐにすっかり自信喪失し、絶望しました。自作詩の朗読は二度とやるまいという誓いを心に立てることになりました。

そして、二年ほどの空白がありました。しかし、どこか悔しさが胸のなかにあつたのかもしれない。朗読をしていない間にも詩作は続けておりましたから、頭の片隅では自作詩の朗読の失敗のイメージがど

＊和合流朗読のポイント

朗読には、滑舌、抑揚、声の強弱や大小など技術的なポイントが多分にあります。

でも、それよりも大事なことがあるということをお伝えするのが本稿の目的なのですが、それでは物足りないかもしれませんので、ここで私なりのポイントを少しだけ述べさせていただきます。

まずは、声を明瞭に出すということは大切なことですが、それと同じくらいに間や静けさと対峙することも大事だということです。

緊張にただただ襲われていただけの時期は、詩の中の静かな部分で、緊張や焦りを大きく伝えてしまっていたように感じます。いつしか、こうした声を発していないときこそが重要だと感じ、静けさもきちんと聞かせようとしている自分に気づきました。つまり、沈黙の間とは、発声や呼吸の調整時間であり、音声と同じくらいにその途切れ目が大事なのだと実感するようになりました。そこが声と心の拠りどころのよくなものとなり、心の落ち着きを保つこと

ここに拭いきれずにあつたのかもしれない。とにかく、このままで終わってしまうことは、表現者としての逃げに過ぎないと歳月を経るうちに思い返しました。チャンスがあれば、またどこかで自作詩の朗読に挑戦してみたい。その頃に親しく通うようになった、個人書店のマスターとそのような話をしているうちに、「それならばここでやってみては」というお誘いをいただいたのでした。

＊作品世界を楽しむということ

やがて毎月、三週目の土曜日の夕方に、自作詩の朗読会を開くことになりました。初めは椅子を並べて二〇人ぐらいで満員になるスペースに、お客さんの数は半分もいないぐらいでした。いつもマスターの尽力と励ましがあり、めげずにこつこつやり続けていくうちに、次第に人が増えてきて、顔なじみのお客さんもできてきました。終わってから朗読の感想を直接聞くことができるのが、自分にとっての貴重な勉強の場になりました。

そもそも、私はあがり性なところがあります（誰も信じてくれませんが）。緊張して何をしているのかわからないうちは、発信する側はもちろんですが、受け止める側も同じく、心の落ち着きどころを見つけることができません。何よりも、こちらが楽しんでいないと、受け手に本当の楽しさを伝えられるはずがありません。これは、授業の場面でも全く同じかもしれません。指導する側が何よりも作品世界を楽しんでいなければ、生徒たちに伝えるはずがないというのが教師としての持論です。朗読会にしても、授業にしても、そうした余裕をもつことができるようになるには、ある意味で場数を踏むしかない、その頃の私は直感していたのでしょう。お客さんを前にすることの意味を教わったのが毎月の朗読会でした。

この朗読会は、一年間ほど続けさせていただきました。今も思い起こしては懐かしくなります。

ができるようになるのだと、しだいにわかってきたのです。

次に、私の朗読の準備方法についてお伝えしましょう。テキストに事前に自分なりの線や文字で書き込みをすることの大切さです。

ファイルに綴じている昨年の私の朗読の台本のいくつかを、あらためて見直してみます。例えば、読みにくい単語は、線を引いたり、丸で囲んだりしています。また、「強」「弱」「大」「小」などの文字を実際に記しつつ、スピードやテンポ、声の強弱や大小、高低を記しています。「青空」「寂しく」など、読むときの心のイメージも書いています。

こうしたコメントは、できるかぎりシンブルなほうがよいと思っています。声を発しているときに、ぱっと目に飛び込んでくるようにしておかないと、見落としたり読み間違えたり、朗読の妨げになったりする心配があるからです。

時折、「天」「地」「人」という言葉も書いています。「天」は上から降ってくるように、「地」は下を這うように、「人」はお客

した。

アジアでは、中国、台湾、シンガポール、韓国、インドネシアなどに行きました。どの国でも朗読について熱心なものを感じましたが、特にインドネシアは印象深いものでした。若者を中心にリーディングのイベントが盛んであり、夕方になるとカフェや公園などに仲間たちが集まり、輪になっている様子を目撃しました。私は、夜に特設の野外ステージに招かれましたが、驚くほどの聴衆（二〇〇人以上）がいて、こちらは日本語で朗読をしているにもかかわらず、客席からの掛け声や拍手などのリアクションが凄くて、圧倒されてしまいました。いや、負けずになんとか頑張りました。

海外で味わった、それぞれの熱い空気感が、少しでも読者のみなさまに伝わっていればよいのですが。それぞれに詩の朗読を心の底から楽しんで、それをその場で分かち合っていました。自分なりの読み方であり、よいことを前提として、詩や朗読がとても身近で自由なものとして、いつも傍らにある感じがします。幼い頃から家庭で、学校で、そして社交場で、作品について声

さんに語りかけるように。などというイメージで書き込みをしています。こんなふうに分の好きな（勝手な）文字や記号を書き込むのがよいと思います。

読む前に書き込みをしてみると、テキストをどうとらえようとしているのか、自分の頭の中が見えてくる気がします。このように朗読のプランが先に見えてくると、仮の全体像を描くことができます。

授業の中で、生徒たちにもこのような書き込みによる朗読の準備を少しでも説明してみると、取り組みが違ってくるように感じます。そして、声にしてみる機会を設けることにより、作品への親しみを増している姿がこちらに伝わってきます。

＊詩の朗読に見るお国柄

少しだけ、海外での詩の朗読のフェスティバルに参加したときのことをお話しさせていただきます。

まず、ヨーロッパでは、オランダ、フランス、スロベニアの詩祭に参加させていただきました。母国語という依頼があったの

に出すことをためらわれない開かれた意識がある。私たちの家庭や学校教育の場において、大いに参考にしたいと、それぞれの国で直感できたのはよい体験でした。

東日本大震災から一三年目の春を迎えました。

震災の少し後で落ち着きを取り戻した時に、ある先生から涙ながらにお話をいただいたことがあります。「教室に津波で家族や家を失った生徒があり、国語の授業でどうしても教科書に出てくる『海』や『波』という言葉を口に出せない感じがあった。この間、初めて、和合さんが書いた詩を生徒たちと朗読した。『海』や『波』を声にすることができた」と。決して私の詩の力ではなく、朗読というものに内在している力なのだと実感しました。私も眼が潤みました。元日から起こった能登半島地震の災害に心を痛めております。福島から祈り続けております。

で、日本語で朗読させていただいたり、たくさんの方の詩人たちの朗読に耳を傾けたりして肌で感じたのは、朗読への親しみがとても深いということです。抽象的な言い方をすれば、耳が朗読に開かれている、独特の澄んだ感覚をさまざまな場面で覚えました。

いろいろな詩人たちと語り合う機会をいただきましたが、そもそも自作、他作にかかわらず、作品の朗読はとても自然なことであるようです。例えば、作品を書き上げると、まずは家族や友人や仲間たちに、声に出して披露し、感想をもらうことにしているという話を幾人からも聞き、朗読という行為の敷居の低さを感じました。

アメリカでは、サンフランシスコなどで、同じく母国語という依頼を受けて朗読させていただきました。真摯にまなざしと耳を向けている態度のなかにも、独特のノリがよいと感じました。例えば、テンポがよくて気に入ったところがあると、客席から自然と掛け声があがったりして、こちらが驚かされてしまいました。なるほど、ラップなどの音楽文化のある国だと感じ入ります。



▲スロベニアの詩祭で朗読をする著者

詩の作品大募集！

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたします。応募作品の中から和合先生に選んでいただいたものを誌面に紹介していきます。奮って応募ください！（募集要項は64頁）

助動詞一覧表を眺める

紫式部にファンレターを書こう⑩

おおくら ひろし
大倉 浩
筑波大学教授

前回「ぞ・なむ・こそ」という「強調」の係助詞が、物語など平安時代の散文において、メリハリを作る働きを持ち、やがてこの働きが接続詞に取って代わられていくという話をしました。

今回は「結び」のほうの形式、活用形ではなく、文末によく現れる助動詞を見てみます。前回同様『竹取物語』の冒頭部分です。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむ言ひける。その竹の中に、元光る竹なむ一すぢありける。怪しがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

文末は「けり・たり」など助動詞ばかりですね。現代の物語（小説）でも、語り手が過去の出来事として「た・

であった」と物語るように、古文でも過去の助動詞「けり」が物語の地の文で多用され、動詞や形容詞だけで結ぶことはあまりありません。そして助動詞は、日本語の歴史の中で大きく変化してきました。古語の助動詞約三十語のうち、現代語に残っているのは十語ほど、残り三分の二が衰退しているので、衰退した助動詞の意味・接続・活用を憶えていかないと古文の読解は進みません。

ただ、助動詞三十語をしつかり憶えようとしても、「つ・ぬ・たり・り」がともに完了の意味であったり、「る・らる」が受身・自発・可能・尊敬と四種の意味を表したりと、助動詞と意味が一对一の関係にはないので、憶えづらいし解釈でも迷いがちです。接続も、未然形・連用形・終止形・連体形それぞれに接続する助動詞が複数あり、完了の「り」のように、已然形接

続か命令形接続か、古語辞典や副読本でも見解の異なるものもあります。さらに、活用も様々で、六種の活用形のない不完全な助動詞も半分以上あります。打消推量の「じ」のように「○・○・じ・じ・じ・○」と変化しないものもあります。

かりに助動詞三十語すべての意味・接続・活用を憶えられたとしても、すぐに古文の読解が深まるでしょうか？ 将棋の駒それぞれの動かし方を憶えたからといって、すぐに将棋が指せるわけではないですね。各駒の特徴を組み合わせて攻撃や防御を整える、つまり、各駒の共通点や相違点といった関係性がわかってはじめて将棋が指せるようになるのだと思います。助動詞の学習も同様です。助動詞個々の意味・接続・活用を知ることとは必要ですが、他の助動詞との関係を知っておくこともとても重要です。そして実は、助動詞一覧表は、そうした関係を教えてくれる便利なツールなのです。

古典文法の副読本や古語辞典、もちろん教科書にも、見開きで「助動詞一覧表」が必ず示されています。助動詞の順序は微妙に違っていますが、多くの場合、未然形接続の「る・らる」「す・さす」から始まって、連用形接続→終止形接続→連体形接続→体言・その他

と、接続形の順序に並んでいます。これには理由があるのです。

まず、一覧表を右から左へ俯瞰してみてください。連用形接続には「完了・過去」という「時制」の意味の助動詞が集まっています。終止形には「推量」、連体形には「断定」と、似た意味の助動詞がまとまっています。もちろん例外もありますが、接続と意味が無関係ではないことがわかります。さらに活用を見てみると、未然形接続の助動詞は活用形が完備しているものが集まっていて、連用形接続はやや不備、終止形接続は多くが不備になっています。接続と活用も関係があるので、それだけでなく、動詞に接続する助動詞の順番も、例えば、

思は・れ・たる・べき・なり。

というように、一覧表の順序に従っています。

ということは、一覧表のどのあたりに位置している助動詞か、周辺の助動詞には何があるか、一覧表を手がかりに、ざっくりと助動詞を束ねて憶えていくことができそうですし、そこには個々の助動詞の意味や接続・活用の理由も隠れています。詳しくは次回になりますが、皆さんも助動詞一覧表を俯瞰してみてください。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

「そうだ」の「だ」は要るそう……だ？

「平安時代を舞台にパリジェンヌがエイリアンと戦う青春ホラーヒューマンコメディ」映画、絶賛公開中だっけ。おもしろいのかなあ——と、友達から聞かれました。

人気イラストレーターが手掛けたポスターを見て波瀾万丈のストーリーやアクションシーンが期待できると思ったら、「おもしろそうだ」と答えるでしょう。雑誌の映画評で評論家が☆をたくさん付けていた情報を伝える場合は、「おもしろいそうだ」という答え方になります。

同じ「そうだ」でも意味合いが違います。「おもしろそうだ」の「そうだ」は、自分で推測してそのように判断するときに使われる、様態の助動詞と呼ばれるものです。「おもしろいそうだ」の

しくありません。
それに対して、伝聞の「おもしろいそうだ」「降るそうだ」を、「おもしろいそう」「降るそう」と、「そう」で止めるのは中途半端で不自然な感じがあります。『明鏡国語辞典』も、伝聞の助動詞の場合、『だ』や『です』を省略した形は標準的でない」と注記しています。

ところが、最近では、テレビのナレーションなどで、伝聞なのに「だ（です・である）」を省いた形をよく耳にするようになりました。

「そうだ」の「だ」には、きっぱりと判断を示す働きがあります。濁音の響きが強いこともあって、柔らかに表現したい思いがあると、末尾は言いたずらに「そう」と、終えなくなってしまうのかもしれない。

特に、「のだそうだ」と続く場合は、最後の「だ」が落ちやすいようです。「この店は百年前から続いているのだそう」「隣の町から毎日通い続けている常連客も多いのだそう」のような表現です。「のだ」に確認したり断定したりする気持ちがかこ

関根 健一

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」「三省堂」「ちびまる子ちゃんの敬語教室」集英社、「文章がフツーに」うまくなる とつておきのことば術」「品格語辞典」「無礼語辞典」（大修館書店）など。『明鏡国語辞典 第三版』編集・執筆協力者。

方は、誰かから伝え聞いた内容（伝聞）であることを表します。

様態の助動詞は「おもしろ（おもしろい）の語幹＋そうだ」、伝聞の助動詞は「おもしろい（終止形）＋そうだ」と、接続の形が違います。

雲が垂れ込めた空を見てつぶやくときは「降り（連用形）＋そうだ（様態の助動詞）」、天気予報で聞いた情報を友人に伝えるなら「降る（終止形）＋そうだ（伝聞の助動詞）」です。

様態の「おもしろそうだ（です・である）」は、「おもしろそう」と、「だ・です・である」が省略される場合があります。特に話し言葉では、感情が高ぶったり、あわてたりしたときは、「おもしろそう！」「降りそう！」と思わず口に出てもおか

もっているため、もう「だ」はこれで十分だ、といった気持ちが働くのでしょうか。
そもそも接続の形が異なり、「のだ」に続く「うだ」は伝聞の意味になるのははっきりしていて、紛れることはないといえ、なんとなく落ち着かない感じがします。

そうしなければならぬ、という意志や決意を示すとき「すぐに実行すべき」「優先してやるべき」などと表現することがあります。文末で言い切るとき（終止形）は「べし」なのですが、少々古めかしく、硬く感じられるせいか、文の末尾を「べき」で止めることが好まれるようです。ただ、「べき」は連体形ですから、「べきだ」「べきである」「べきです」と、続けるべきだ、と苦言を呈する人もいます。

「だ」の省略には、人に嫌われたくない、穏やかな関係を築きたいと思うあまり、きつく受け止められる言い方をできるだけ避けたいとする心理が潜んでいそう……だ、というのは考えすぎでしょうか。

青山あり！

中国祠墓紀行

[WEB国語教室]運動

第十回

陳勝墓

(河南省永城市)

文と写真

平井 徹

慶應義塾大学講師 (中国文学)

陳勝(？～前二〇八)。字は渉。陽城(現在の河南省方城県)の人。秦の始皇帝死後に、呉廣(？～前二〇八)とともに、中国史上初の農民武装蜂起の首領となる。彼らの挙兵は時流に乗り、秦王朝滅亡の引き金となった。司馬遷『史記』では、その業績を「陳涉世家」として、諸侯の伝記である「世家」の列に加え、班固『漢書』では、その後に見れて秦を滅ぼした項羽とともに「陳勝項籍伝」として編纂し、列伝の冒頭に置いた。いずれも、時代を切り拓いた人物として取り扱っていることがわかる。

秦の二世皇帝元年(前二〇九)七月、彼は長城近辺の国境守備に徴発されることになった。呉廣とともに組頭となり、九百人の壮丁を率いて北東方向へ途を取ったが、大澤



◆DATA

人物：陳勝(？～B.C208)。秦末の農民蜂起のリーダー。『史記』巻48、『漢書』巻31に伝がある。
墓所：河南省永城市芒山鎮陳勝園景区内
アクセス：東京から ▶ 7h 鄭州 ▶ 3h 永城
あわせて行きたい：沛公故里 (江蘇省沛県)、項王故里 (安徽省宿遷市)、古垓下聚 (安徽省靈璧県)

郷(詳細は後述)まで来たところで、大雨のために行く手を阻まれてしまう。その名のとおり、この一帯は、当時小河川が入り組む沼澤地帯だった。秦の律は苛烈で、期限に間にあわなければ斬罪に処せられる。進退窮まった二人は同志を糾合し、いちかばちかの賭けで叛乱を起こした。

陳勝軍は向かうところ敵なしで、あっという間に軍勢は数万に増え、最盛期には数十万にまで膨れあがった。間もなく陳勝は王位につき、国号を張楚とした。しかし、章邯率いる秦の主力軍の反撃に遭うと、瞬く間に政権は瓦解する。敗軍のさなか、御者の莊賈の裏切りにより、陳勝は刺殺された。王位について、わずか半年後のことであった。

「陳涉世家」は、「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや」

「王侯将相寧くんぞ種有らんや」といった故事名言で名高く、『史記』の中でも出色の一篇である。ここでは、「陳勝は陽に葬られ、諡して隱王と曰ふ」高祖の時、陳涉の為に守家三十家を陽に置く。今に至るまで血食す」との記述に注目しよう(守家三十家)は三十戸の墓守り、「血食」は犠牲を捧げて祭祀する意)。同様の記述は、地理書『水経注』(北魏の酈道元撰)にも見える。引用文中に見える「陽」の地

が、すなわち陳勝墓の所在地であり、現在の行政区分では、河南省商丘市に属する永城市の東北、芒碭山主峰の山麓西南部に位置する。芒碭山は漢の高祖劉邦が旗揚げした直後に一時潜伏した要害の地でもあり、関連する史蹟も数多く分布している。陳勝墓は、後漢以降、長きにわたって廃れ、本格的な修復は、一九七五年まで待たねばならなかった。墓の高さ二・六メートル、周囲の長さ二十七・三メートル。墓碑には、現代の文学者郭沫若の筆による「秦末農民起義領袖陳勝之墓」の文字が刻まれている。「乱」では



▲陳勝王陵正面 (2018年撮影)



▲陳勝墓 (2018年撮影)



▲陳勝呉廣起義旧址に作られた彫像 (2019年撮影)



▲涉故台 (2019年撮影)

なく「起義」の語を用いているのは、現代中国の史観では、彼らは革命を目指した者として、肯定的な評価を与えられているためである。私はここを二〇〇二年と二〇一八年の二度訪れているが、二〇〇六年に「陳勝王陵」として観光開発されたため、再訪時には面目を一新しており吃驚した。陳勝呉廣が旗揚げした大澤郷には、「陳勝呉廣起義旧址」が現存する。安徽省宿州市街から東北へ四キロ、地元では「涉故台」と呼ばれる小高い丘で、彼らが兵を教練したところだとされている。面積は四四二七・八平方メートル、長く風雨に耐えた木立に覆われ、明清・中華民国時代にかけて建てられた石碑数基が残っている。「涉故台」の手前には、一九八六年に落成した陳勝呉廣を記念する彫像があるものの、他に目立った建造物はない。ここも一九九八年と二〇一九年と二回足を運んでいるが、観光地化の波に洗われることなく、地方の農村の光景を留めていて、再訪時には、ある種の懐かしさを伴った既視感を覚えたものだった。

幸田国広 編著

高校国語〈比べ読みの力〉を育む実践アイデア

思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける

B5判・並製・一六〇頁
定価 二四二〇円（税込）

評者 荒木 信

今年度の共通テストにおいて、すべての大問にわたって、複数資料を関連付けて考える設問が出題された。いまや国語科において〈比べ読み〉はホットトピックであるといえよう。本書は、そのような〈比べ読み〉に焦点を当てた一〇例の授業実践を紹介したものである。

一口に〈比べ読み〉といっても、その観点や教材はさまざまである。本書の実践においても、オーソドックスな文学作品や評論文の比較のほか、古典と映画、評論文と法令、英語俳句とその

翻訳など、さまざまな〈比べ読み〉が展開されている。また本書の実践では、もう一つの大きな軸として〈思考ツール〉を取り上げており、実際の生徒成果物も豊富に掲載されている。マトリクスや座標軸、ベン図などの〈思考ツール〉の活用は、比較の視点をより明確にするほか、生徒の思考を可視化し、評価の際にも役立つようだ。

各実践には、編者によるポイント解説も付されている。〈比べ読み〉の授業づくりの際にぜひ活用したい一冊である。

渡部信一 著

「AI知」への逆襲

日本文化論の視点

四六判・並製・一三六ページ
定価 一七六〇円（税込）

評者 木村 豊

AI技術をうたったモノやコトで巷は溢れかえっているが、教育現場でもタブレット向けに開発された学習ツール、評価ツールなどにAI技術は利用され、文部科学省は令和五年七月に暫定ガイドラインを公開した。AIの進化は至る所に変化を及ぼしている。

本書はAIとヒトの知に焦点を当て、これからの「知」のあり方の糸口を三冊の著作『茶の本』『遠野物語』『いき』の構造』の視点に求めた書である。まず、現在の社会は高度経済

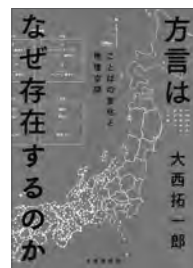
成長期以降の効率性と利便性を追求してきた当然の結果なのだという。また、従来の教育で推奨されてきた効率良く系統的に積み上げる知識は不測の事態に對して脆弱なのだという。

今後のAIの普及により、学習者の主体性が減退していくことや、試行錯誤や実体験から得られるリアリティが失われてしまう危険性にも言及している。三作品の日本文化論の視点をふまえて、「AI社会で必要とされるヒトの知とは何か」を考えさせられる書である。

大西拓一郎 著

方言はなぜ存在するのか

ことばの変化と地理空間

A5判・並製・二五六ページ
定価 二七五〇円（税込）

評者 大井悟郎

書名の疑問に對して、端的に答えられる人はどれくらいいるだろうか。本書は、日常的な語彙を取り上げながら、この疑問に迫り、方言形成のダイナミズムを解き明かす書籍である。

例えば、じやがいもを「セーダユー」「センダイ」「コーシユー」「ゴーシユー」などと呼ぶ地域がある。普及に尽力した人名（清太夫）から「セーダユー」、それに音が類似し寒冷のイメージを共有することから「センダイ」（仙台、清太夫が活躍した地名（甲州、山梨県）から「コ

ーシユー」、それと音が類似した地名（江州、滋賀県）から「ゴーシユー」が、それぞれ生じた。この事例からも、音が似ている、同音異義語を避け誤解を防ぐ、人名や地名になじみがある、といった人間の営みが見えてくる。ソシユール以来、「言語記号の恣意性」ということが言われてきたが、筆者は、その恣意性に抗して事物と言葉とのつながり（物語）を見出そうとする、「有縁化」の働きに着目する。

言語に興味のある方にとって、刺激に富んだ読書となるはずだ。

井出 新著

シェイクスピア、それが問題だ！

シェイクスピアを楽しむための百問百答

四六判・並製・一四四ページ
定価 一八七〇円（税込）

評者 坂巻政彦

初期近代の英国人作家ウィリアム・シェイクスピアは、日本でも人気がある。翻訳の歴史も長く、上演、翻案も盛んだ。だが、その高い認知度の割に、彼の素性はよく分かっていない。

その謎に包まれた人物像について最新の研究成果を踏まえつつ、簡潔明瞭に解説したのが本書だ。一〇〇題のQ&Aが、シェイクスピアの人物像、文化的背景、作品、台本や原文の読み方の四部構成で整理されている。当時の劇場構造や本の作りなど専門的な内容から、猫派か

大派かといった、疑問に思ってもなかなか聞くことのできないものまで、質問は多岐にわたる。彼の作品の年表、当時の劇団や貨幣のリストなど作品の理解に役立つ知識がまとめられている点も嬉しい。原文を読むのに必要な知識の解説もあり、同企画の「大修館シェイクスピア双書」の橋渡しにもなるだろう。

また、質問に関連する内容が原文で引用されている。シェイクスピアの英語に触れてみたいと思われた方はその引用を味わうのも良いかもしれない。

News & Topics

国語・教育に関わる情報と
授業に役立つ話題を集めました。

教育行政関係

- 小・中学校の不登校児童生徒数が約29万9千件で過去最多(10/4)
- 学校基本調査公表(12/20)
- 義務教育に関する意識に係る調査公表(12/27)
- 令和6年度大学入学共通テスト実施(1/13,14)
- 2024年3月高校卒業予定者の就職内定率は12/31現在91.1%(2/22)
- こども家庭庁「青少年のインターネット利用環境実態調査」公表。高校生のインターネット利用率は99.6%(2/26)

国語関係・時事

- 「国語に関する世論調査」結果公表(9/29)
- ノーベル文学賞はノルウェーのヨン・フォッセ氏(10/5)
- 興膳宏死去。86歳(10/16)
- 「今年の漢字」は「税」(12/12)
- 能登地方でM7.6の地震発生(1/1)
- 芥川賞は『東京都同情塔』(九段理江)、直木賞は『ともぐい』(河崎秋子)、『八月の御所グラウンド』(万城目学)が受賞(1/17)
- SLIM、日本初の月面着陸成功(1/20)
- H3ロケット2号機打ち上げ成功(2/17)

国語に関する世論調査

文化庁は9月29日、令和4年度の「国語に関する世論調査」の結果を公表した。今回の調査では、情報の入手先やローマ字表記等についても調査された。

「言葉の意味や使い方が分からないとき、調べたり確かめたりするか」の問いには、83・0%が「する」と答えたが、その手段は「インターネットの検索サイトなどで検索(63・2%)」、続いて「パソコンやスマートフォンなどの辞書ソフト・辞書アプリを利用(39・8%)」、「誰かに教えて

もらう(34・6%)」、「紙の辞書を使う(26・7%)」、「インターネットの辞書サイトを利用(23・9%)」となっている。

「アルファベットの略語(DX、SNS、AEDなど)の意味が分からず困ることがあるか」の問いには、85・1%が「ある」と答えた。また、略語を使う状況を「好ましい」と感じる割合は45・1%に留まった。

義務教育に関する意識に係る調査

文部科学省は12月27日、「義務教育に関する意識に係る調査」の結果を公表した。義務教育や学校に期待されている役割、授業や学習スタイル、学校生活等について教師、児童生徒、国民の意識を調査するもので、教師(公立小中学校)、児童生徒、一般国民で設問が異なる。教師対象の質問「義務教育修了時に身に付けておくべき能力・態度」では「基礎的・基本的な知識・技能」が73・4%にのぼった。

る意識に係る調査」の結果を公表した。義務教育や学校に期待されている役割、授業や学習スタイル、学校生活等について教師、児童生徒、国民の意識を調査するもので、教師(公立小中学校)、児童生徒、一般国民で設問が異なる。教師対象の質問「義務教育修了時に身に付けておくべき能力・態度」では「基礎的・基本的な知識・技能」が73・4%にのぼった。

令和6年度大学入学共通テスト実施
2024年1月13・14日の2日間、大学入学共通テストが実施された。

令和6年度大学入学共通テスト実施

志願者は49万1914人、実際の受験者は45万7608人(追・再試験含)で前年より減少、受験率は93・03%だった。現役志願率(卒業見込み者のうち共通テストに出席した者の割合)は45・2%だった。

本試験のみの受験者は45万6173人。追試験、再試験を受けた者は1435人。本試験に加えて受けた者も含む。昨年の追・再試験者は3471名。令和6年能登半島地震で被災したことを事由とする追試験許可者は16名だった。

国語の平均点は116・50点(200点満点)、教科選択率は94・9%。全科目で得点調整は行われなかった。

研究会・展覧会だより

全国大学国語教育学会 第146回鹿児島大会

日時 2024年5月25日(土)・26日(日)

場所 鹿児島大学教育学部(対面)

日本方言研究会 第118回研究発表会

日時 2024年5月31日(金)

場所 国立国語研究所(対面)

日本語学会 2024年度春季大会

日時 2024年6月1日(土)・2日(日)

場所 東京外国語大学府中キャンパス(対面)

全国漢文教育学会 第39回大会

日時 2024年7月12日(金)・13日(土)

場所 北海道教育大学旭川校ほか(対面)

特別展 夢みる光源氏

公文書館で平安文学ナメ読み！

会期 令和6年3月16日(土)~5月12日(日)

場所 国立公文書館 東京本館

企画展 歌と物語の絵

雅やかなやまと絵の世界(仮)

会期 2024年6月1日(土)~7月21日(日)

場所 泉屋博古館東京

※開催にあたっては、変更の可能性があります。学会・研究会ウェブサイトをご確認ください。

先日、子どもの通う小学校の創立70周年記念行事で全校児童一斉に風船を飛ばす「ブルーリリクス」に参加しました。その日は風もない穏やかな快晴の一日でしたが、子どもたちの小さな手から放たれた無数の風船は、広い空を誘い合いじやれ合うかのように同じ方向へ飛び立っていききました。それはまるで広い世界に飛び込んでいく子どもたちに「仲間とずっとつながっているよ」と伝えていくようでした。

これから広い世界に飛び込んでいく学生の皆さんやそのご指導に携わる先生方とも、大修館の本を通してつながっていただけない喜びです。机の傍らにそっと置いて頂ける書籍をご紹介できるよう励んでいます。

東京支店 関根靖弘



寒さ厳しい冬が終わり、「新学期」、「新社会人」、「新生活」と何かと「新」のつく春が訪れました。私はこの春で社会人三年目となります。学生時代は出会いと別れの季節である春に心躍らせておりましたが、社会人三年目ともなると、とりわけ新しい何かが始まることはありません。しかし、このまま春をやり過ごすのはあまりにもったいなく感じます。学生時代のような大きな変化はありませんが、身の回りのもの一つ変わるだけで気分が高揚するような気がします。

私はこの春、靴でも新調しようかと思っています。お気に入りの一足に出会えた時、それはささやかながらも心躍る、私だけの出会いの季節になると思います。

東京支店 工藤愛心



人間は、ここ一番というところで失敗を犯す生き物のようです。例えば、入学試験のとき。緊張と不安から、普段では考えられないことをしてしまっただけ。そうした苦い記憶をお持ちの方も多いのでは。かくいう私も、左右で違う靴下を履いて行ったり、「福沢論吉」と書いたり、受験番号の転記ミスをしてきたり、小さきさまざまな失態を演じてきました（今ではいづれもいい思い出です）。▼さて、今号の特集では、令和七年度から実施される新課程の大学入試にスポットを当てました。国語の入試はどのように変わるのか、どのような対策を行えばよいのか。今号ではそうした先生方の不安を少しでも軽減できるよう、具体的な対策を盛り込んだ授業実践をそろえたつもりです。授業を練られる際の一助となれば幸いです。▼小誌が皆様のお手元に届く頃には、三年生の生徒さんたちは、それぞれの新しい道に踏み出しているところでしょうか。長い人生、気負わず焦らず、充実した新生活を送られるよう祈念しております。（竜）

詩の作品 大募集！

詩人の和合亮一先生による連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介いたします。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント！

下のQRコードから奮って応募ください。郵送可。



国語教室 第121号
2024年4月15日発行

編集人 国語教室編集室
発行人 鈴木 一行
印刷所 広研印刷株式会社
発行所 株式会社 大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話 03(3868)2651(営業部) 03(3868)2290(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp/>

高校国語 幸田国広[編著]

〈比べ読みの力〉を育む 実践アイデア

思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける

新学習指導要領に対応した高校国語授業実践集。評論、小説、アニメ、俳句、投書、法令、広告、古典など、さまざまな教材を用い、思考ツールを活用して展開する〈比べ読み〉の実践10例を紹介。何のために比べ、どのような力を育むのかを明確にした〈比べ読み〉を提示する。活用アドバイスを示した「思考ツール一覧」付。●B5判・160頁 定価2,420円(税込)

〈比べ読み〉で目指す「深い学び」!

高校国語
〈比べ読みの力〉を育む実践アイデア
思考ツールで比べる・重ねる・関連付ける
何のために比べ、どのような力を育むのか
「深い学び」を目指す〈比べ読み〉10の実践
…評論・小説・アニメ・俳句・投書・法令・広告・古典…

大修館書店 お求めは書店または小社HPへ。詳しい情報はこちら▶

国語教育は 文学をどう 扱ってきたのか

「論理国語」と「文学国語」はなぜ生まれたのか

世紀の大改革といわれる高校国語の科目再編。その背景には、戦後から繰り返し論議を呼んできた、「言語の教育」と「文学の教育」の相剋があった! 国語教育における文学の扱いの変遷を丹念に検証し、現在の、そして、これからの国語教育のあり方を問う。

●四六判 274頁
定価2,420円(税込)

幸田国広[著]

国語教育は 文学をどう 扱ってきたのか
第二章 戦後国語教育は文学に何を求めたのか
第三章 文学教育はどう展開したか
第四章 文学教材の指導はどうに確立したのか
第五章 定番教材はどう読まれてきたか
第六章 国語教育はどうに変わりを迫られたか

大修館書店 お求めは書店または小社HPへ。詳しい情報はこちら▶